

科目名	栄養学	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	和田 佐和子	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
人は生きていくのに必要なエネルギーを得るために、脳では「お腹がすいた」という感覚を作り出し、その結果私たちは食べ物を摂取するという行動をとる。そうして得た1回の食事が続くと食生活となり、私たちの健康や疾病の成り立ちに影響を及ぼす。このように生きているために起こる様々な身体の現象や身体の機能を生理といい、人の生理と摂取した栄養素の関係、および食品に含まれる栄養素の種類や性質を学ぶ。					
到達目標					
解剖学、生理学といった必修科目から発展して、人体の仕組みと生理が栄養と代謝にどう関わるのかを理解できるようになることを目標とする。人の自然治癒力と栄養状態は密接に関係しており、鍼灸や徒手療法の治療効果を左右する要因となるため、ケガや症状と栄養の関係について考え、アセスメントできるようになることを目指す。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	栄養学とは ガイダンス 食べることの意味を考える				
第2回	栄養状態の把握の仕方 栄養アセスメント1				
第3回	栄養状態の把握の仕方 栄養アセスメント2				
第4回	三大栄養素・五大栄養素				
第5回	炭水化物 1				
第6回	炭水化物 2				
第7回	たんぱく質 1				
第8回	たんぱく質 2				
第9回	脂質 1				
第10回	脂質 2				
第11回	水溶性ビタミン 1				
第12回	水溶性ビタミン 2				
第13回	ミネラル 1				
第14回	ミネラル 2				
第15回	まとめ				
第16回	試験				
授業時間外の学習					
事前学習：栄養学については知らないことばかりで構わないので、講義の前にテキストに目を通し、知らない言葉や読んでも理解できないことをはっきりさせてから講義に臨む。 事後学習：講義ノートや配布資料を見直し、知らない言葉の意味はわかったか、読んでも理解できなかったことは理解できたか、理解が出来たら覚えるということを繰り返す。					
成績評価					
定期試験と小テストにて評価					
使用テキスト					
渡辺昌 「運動・からだ図解 栄養学の基本」マイナビ出版					
担当教員の実務経験					
病院・保育園等において管理栄養士としての実務経験を有する。					

科 目 名	薬膳学	対 象 学 科	鍼灸学科		
担 当 教 員	和田 佐和子	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	2単位
授 業 概 要					
中医学の基礎理論に基づき、食物を用いた病の予防や健康維持、治療などについて研究する学問を「中医栄養学」といい、薬膳とはこの理論に基づいた食養生法である。中医学の基礎理論に基づき「医食同理、薬食同源」の原則によって様々な食物と中薬を組み合わせ、その効能を発揮させ、病を予防、治療、回復を目指す薬膳の基礎から、季節の食養生、鍼灸治療と密接にかかわる各種疾患の薬膳について学ぶ。					
到 達 目 標					
中医学の基礎理論と季節の薬膳について理解し、症状に合わせて薬膳を組み立て、実際の食生活に取り入れられるようにする。さらに実際の鍼灸治療と合わせて患者へのアドバイスが行えるようになることを目標とする。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	薬膳とは薬膳と科学				
第2回	薬膳を学ぶための基礎知識 1				
第3回	薬膳を学ぶための基礎知識 2				
第4回	薬膳を学ぶための基礎知識 3				
第5回	気を補う薬膳 1				
第6回	気を補う薬膳 2				
第7回	春の薬膳				
第8回	長夏の薬膳				
第9回	夏の薬膳				
第10回	秋の薬膳				
第11回	冬の薬膳				
第12回	感冒の薬膳 1				
第13回	感冒の薬膳 2				
第14回	補血の薬膳				
第15回	まとめ				
第16回	試験				
授 業 時 間 外 の 学 習					
事前学習：東洋医学概論の講義で学んだことを復習してくる。 事後学習：講義ノートや配布資料を見直し、知らない言葉の意味はわかったか、読んでも理解できなかったことは理解できたかどうかを確認し、理解が出来たら覚える。日々の食事において学んだことを活かす。					
成 績 評 価					
試験と小テストにて評価					
使 用 テ キ ス ト					
梁蓓 「すこやかな身体をつくる 薬膳食材大全」アブリスタイル					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
病院・保育園等において管理栄養士としての実務経験を有する。					

科目名	人体の構造と機能		対象学科	鍼灸学科	
担当教員	山上 正典、白崎 史剛、阿江 邦公、内山 美紅	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	20単位
授業概要					
・人体の構造と機能A 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。					
・人体の構造と機能B この授業では、はじめにからだの構造を広義で学んだ後、循環器、血液と免疫、呼吸器、泌尿器の項目を学習することで、解剖学と生理学の基礎を理解し、西洋医学と東洋医学の両方の授業へつなげていく力を身につける。1学期と2学期では、学期の途中で小テストを行い、理解度の確認を行う。					
・人体の構造と機能C 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。					
・人体の構造と機能D 西洋医学の基本となる、解剖学・生理学を習得し他の分野に対応できる力を身につける。人体の仕組みを理解することで、刺鍼部位や経穴の場所も把握する力を身につける。また、授業と問題の演習を行うことで国家試験に対応できる力を身につける。					
到達目標					
・人体の構造と機能A 人体の構造と機能の理解し、鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目的とする。 鍼灸師として人体に施術するにあたって、筋・骨の理解は必須である。					
・人体の構造と機能B 授業内容とともに予習と復習の学習方法を習得し、頭の中で人体の構造がイメージできること・他の授業へとつなげることができることを目標とする。					
・人体の構造と機能C 人体の構造と機能の理解し、鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目的とする。 具体的には「神経」「感覚」について説明できるようになる。					
・人体の構造と機能D 授業内での講義や授業後に確認テストなどを行い、西洋科目の基礎を身につけられるようになる。毎回の授業後の範囲の確認テストを実施することで4科目に触れることで国家試験に対応できる力を身につけられるようになる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容		回数	授業計画・内容	
第1回	ガイダンス・運動器系概論		第21回	下肢の筋②	
第2回	骨概要・全身の骨・骨の構造		第22回	下肢の筋③	
第3回	骨の構造②・関節		第23回	下肢の筋④	
第4回	脊椎・胸郭①		第24回	筋の復習①	
第5回	脊椎・胸郭②		第25回	体幹の筋①	
第6回	上肢の骨①		第26回	体幹の筋②	
第7回	上肢の骨②		第27回	頭頸部の筋①	
第8回	下肢の骨①		第28回	頭頸部の筋②	
第9回	下肢の骨②		第29回	筋の生理学①	
第10回	頭蓋骨①		第30回	筋の生理学②	
第11回	頭蓋骨②		第31回	2学期総復習	
第12回	骨総復習①		第32回	定期試験・試験解説	
第13回	筋概要・関節の運動方向		第33回	オンデマンド（骨復習・演習問題①）	
第14回	上肢の筋①		第34回	オンデマンド（骨復習・演習問題②）	
第15回	1学期総復習		第35回	オンデマンド（骨復習・演習問題③）	
第16回	定期試験・試験解説		第36回	オンデマンド（筋復習・演習問題①）	
第17回	1学期の復習・上肢の筋②		第37回	オンデマンド（筋復習・演習問題②）	
第18回	上肢の筋③		第38回	オンデマンド（筋復習・演習問題③）	
第19回	上肢の筋④		第39回	オンデマンド（筋復習・演習問題④）	
第20回	下肢の筋①		第40回	オンデマンド（筋の生理学復習・演習問題）	
授業時間外の学習					
・人体の構造と機能A 事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。 事後学習：教科書、配布資料等を参考に復習を行う。					
・人体の構造と機能B 予習：次の授業で行う範囲を読んでくこととその範囲の図解をイメージできるようにする。 復習：今回の授業で行った範囲を再度、読み込むを行い、理解度を確認することと頭の中でイメージできるかの確認を行う。					
・人体の構造と機能C 事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。 事後学習：教科書、配布資料等を参考に復習を行う。					
・人体の構造と機能D 授業内での講義や授業後に確認テスト					
成績評価					
・人体の構造と機能A 定期試験、小テスト、出席などの成績に平常点を加味する。					
・人体の構造と機能B 定期試験の得点（90点分）＋学期中の小テスト（10点分）の100点満点として評価する。 人体の構造と機能（A・B・C・D）のすべての及第点によって単位取得を判定する。					
・人体の構造と機能C 定期試験、小テスト、出席などの成績に平常点を加味する。					
・人体の構造と機能D 1・2・3学期の定期試験での評価 3学期の試験範囲は1・2・3学期の全範囲となる。					
使用テキスト					
・人体の構造と機能A 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用する。					
・人体の構造と機能B 教科書 「解剖生理（医歯薬出版株式会社）」と配布プリント					
・人体の構造と機能C 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用する。					
・人体の構造と機能D 東洋療法学校協会「解剖生理」 東洋療法学校協会「解剖学」 東洋療法学校協会「生理学」					
担当教員の実務経験					
施術所等においてはり師・きゅう師としての実務経験を有する。					

科 目 名	人体の構造と機能		対 象 学 科	鍼灸学科	
担 当 教 員	山上 正典、白崎 史剛、阿江 邦公、内山 美紅	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	20単位
授業概要					
・人体の構造と機能A 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。					
・人体の構造と機能B この授業では、はじめにからだの構造を広義で学んだ後、循環器、血液と免疫、呼吸器、泌尿器の項目を学習することで、解剖学と生理学の基礎を理解し、西洋医学と東洋医学の両方の授業へつなげていく力を身につける。1学期と2学期では、学期の途中で小テストを行い、理解度の確認を行う。					
・人体の構造と機能C 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。					
・人体の構造と機能D 西洋医学の基本となる、解剖学・生理学を習得し他の分野に対応できる力を身につける。人体の仕組みを理解することで、刺鍼部位や経穴の場所も把握する力を身につける。また、授業と問題の演習を行うことで国家試験に対応できる力を身につける。					
到達目標					
・人体の構造と機能A 人体の構造と機能の理解し、鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目的とする。 鍼灸師として体に施術するにあたって、筋・骨の理解は必須である。					
・人体の構造と機能B 授業内容とともに予習と復習の学習方法を習得し、頭の中で人体の構造がイメージできること・他の授業へとつなげることができることを目標とする。					
・人体の構造と機能C 人体の構造と機能の理解し、鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目的とする。 具体的には「神経」「感覚」について説明できるようになる。					
・人体の構造と機能D 授業内での講義や授業後に確認テストなどを行い、西洋科目の基礎を身につけられるようになる。毎回の授業後の範囲の確認テストを実施することで4科目に触れることで国家試験に対応できる力を身につけられるようになる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容		回数	授業計画・内容	
第41回	はじめに・概要		第61回	第6章 液性免疫と細胞性免疫	
第42回	第1章 細胞と細胞小器官		第62回	第7章 呼吸と換気と気道	
第43回	第1章 遺伝子発現・体液の恒常性		第63回	第7章 肺と胸郭	
第44回	第1章 上皮組織・支持組織		第64回	第7章 呼吸とその調節	
第45回	第1章 支持組織・筋組織・神経組織		第65回	第7章 酸素・二酸化炭素の運搬	
第46回	第5章 心臓血管系		第66回	第7章 呼吸の調節	
第47回	第5章 心臓①		第67回	第9章 腎臓の構造と機能	
第48回	第5章 心臓②		第68回	第9章 尿の生成と組成	
第49回	第5章 動脈①		第69回	第9章 泌尿器の構造	
第50回	第5章 動脈②		第70回	第9章 泌尿器の機能	
第51回	第5章 動脈③		第71回	第9章 神経支配と反射	
第52回	第5章 静脈①		第72回	期末定期試験	
第53回	第5章 静脈②		第73回	オンデマンド（国試過去問）	
第54回	第5章 胎児循環とリンパ		第74回	オンデマンド（国試過去問）	
第55回	第5章 血圧と調整		第75回	オンデマンド（国試過去問）	
第56回	期末定期試験		第76回	オンデマンド（国試過去問）	
第57回	第6章 血液成分と赤血球・白血球		第77回	オンデマンド（国試過去問）	
第58回	第6章 血小板・止血機構		第78回	オンデマンド（国試過去問）	
第59回	第6章 血液型		第79回	オンデマンド（国試過去問）	
第60回	第6章 生体防御機構		第80回	オンデマンド（国試過去問）	
授業時間外の学習					
・人体の構造と機能A 事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。 事後学習：教科書、配布資料等を参考に復習を行う。					
・人体の構造と機能B 予習：次回の授業で行う範囲を読んでくこととその範囲の図解をイメージできるようにする。 復習：今回の授業で行った範囲を再度、読み込むを行い、理解度を確認することと頭の中でイメージできるかの確認を行う。					
・人体の構造と機能C 事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。 事後学習：教科書、配布資料等を参考に復習を行う。					
・人体の構造と機能D 授業内での講義や授業後に確認テスト					
成績評価					
・人体の構造と機能A 定期試験、小テスト、出席などの成績に平常点を加味する。					
・人体の構造と機能B 定期試験の得点（90点分）＋学期中の小テスト（10点分）の100点満点として評価する。 人体の構造と機能（A・B・C・D）のすべての及第点によって単位取得を判定する。					
・人体の構造と機能C 定期試験、小テスト、出席などの成績に平常点を加味する。					
・人体の構造と機能D 1・2・3学期の定期試験での評価 3学期の試験範囲は1・2・3学期の全範囲となる。					
使用テキスト					
・人体の構造と機能A 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用する。					
・人体の構造と機能B 教科書 「解剖生理（医歯薬出版株式会社）」と配布プリント					
・人体の構造と機能C 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用する。					
・人体の構造と機能D 東洋療法学校協会「解剖生理」 東洋療法学校協会「解剖学」 東洋療法学校協会「生理学」					
担当教員の実務経歴					
施術所等においてはり師・きゅう師としての実務経験を有する。					

科目名	人体の構造と機能		対象学科	鍼灸学科		
担当教員	山上 正典、白崎 史剛、阿江 邦公、内山 美紅		配当年次 授業形態	1学年 講義	開講時期 単位	
授業概要						
・人体の構造と機能A 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。						
・人体の構造と機能B この授業では、はじめにからだの構造を広義で学んだ後、循環器、血液と免疫、呼吸器、泌尿器の項目を学習することで、解剖学と生理学の基礎を理解し、西洋医学と東洋医学の両方の授業へつなげていく力を身につける。1学期と2学期では、学期の途中で小テストを行い、理解度の確認を行う。						
・人体の構造と機能C 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。						
・人体の構造と機能D 西洋医学の基本となる、解剖学・生理学を習得し他の分野に対応できる力を身につける。人体の仕組みを理解することで、刺鍼部位や経穴の場所も把握する力を身につける。また、授業と問題の演習を行うことで国家試験に対応できる力を身につける。						
到達目標						
・人体の構造と機能A 人体の構造と機能の理解し、鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目的とする。 鍼灸師として人体に施術するにあたって、筋・骨の理解は必須である。						
・人体の構造と機能B 授業内容とともに予習と復習の学習方法を習得し、頭の中で人体の構造がイメージできること・他の授業へとつなげることができることを目標とする。						
・人体の構造と機能C 人体の構造と機能の理解し、鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目的とする。 具体的には「神経」「感覚」について説明できるようになる。						
・人体の構造と機能D 授業内での講義や授業後に確認テストなどを行い、西洋科目の基礎を身につけられるようになる。毎回の授業後の範囲の確認テストを実施することで4科目問題に触れることで国家試験に対応できる力を身につけられるようになる。						
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）						
回数	授業計画・内容			回数	授業計画・内容	
第81回	神経総論			第101回	自律神経	
第82回	神経総論			第102回	自律神経	
第83回	神経総論			第103回	自律神経自律神経	
第84回	神経総論			第104回	伝導路	
第85回	中枢神経 1			第105回	伝導路	
第86回	中枢神経 1			第106回	感覚の一般	
第87回	中枢神経 1			第107回	体性感覚	
第88回	中枢神経2			第108回	痛覚	
第89回	中枢神経2			第109回	味覚、嗅覚	
第90回	中枢神経2			第110回	聴覚、平衡感覚	
第91回	末梢神経 1			第111回	視覚	
第92回	末梢神経 1			第112回	定期試験	
第93回	末梢神経 1			第113回	オンデマンド（復習）	
第94回	末梢神経 2			第114回	オンデマンド（復習）	
第95回	末梢神経 2			第115回	オンデマンド（復習）	
第96回	定期試験			第116回	オンデマンド（復習）	
第97回	末梢神経 2			第117回	オンデマンド（復習）	
第98回	末梢神経 2			第118回	オンデマンド（復習）	
第99回	末梢神経 2			第119回	オンデマンド（復習）	
第100回	末梢神経 2			第120回	定期試験	
授業時間外の学習						
・人体の構造と機能A 事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。 事後学習：教科書、配布資料等を参考に復習を行う。						
・人体の構造と機能B 予習：今回の授業で行う範囲を読んでくこととその範囲の図解をイメージできるようにする。 復習：今回の授業で行った範囲を再度、読み込むを行い、理解度を確認することと頭の中でイメージできるかの確認を行う。						
・人体の構造と機能C 事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。 事後学習：教科書、配布資料等を参考に復習を行う。						
・人体の構造と機能D 授業内での講義や授業後に確認テスト						
成績評価						
・人体の構造と機能A 定期試験、小テスト、出席などの成績に平常点を加味する。						
・人体の構造と機能B 定期試験の得点（90点分）＋学期中の小テスト（10点分）の100点満点として評価する。 人体の構造と機能（A・B・C・D）のすべての及第点によって単位取得を判定する。						
・人体の構造と機能C 定期試験、小テスト、出席などの成績に平常点を加味する。						
・人体の構造と機能D 1・2・3学期の定期試験での評価 3学期の試験範囲は1・2・3学期の全範囲となる。						
使用テキスト						
・人体の構造と機能A 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用する。						
・人体の構造と機能B 教科書 「解剖生理（医歯薬出版株式会社）」と配布プリント						
・人体の構造と機能C 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用する。						
・人体の構造と機能D 東洋療法学校協会「解剖生理」 東洋療法学校協会「解剖学」 東洋療法学校協会「生理学」						
担当教員の実務経験						
施術所等においてはり師・きゅう師としての実務経験を有する。						

科 目 名	人体の構造と機能	対 象 学 科	鍼灸学科		
担 当 教 員	山上 正典、白崎 史剛、阿江 邦公、内山 美紅	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	20単位
授業概要					
・人体の構造と機能A 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。 ・人体の構造と機能B この授業では、はじめにからだの構造を広義で学んだ後、循環器、血液と免疫、呼吸器、泌尿器の項目を学習することで、解剖学と生理学の基礎を理解し、西洋医学と東洋医学の両方の授業へつなげていく力を身につける。1学期と2学期では、学期の途中で小テストを行い、理解度の確認を行う。 ・人体の構造と機能C 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。 ・人体の構造と機能D 西洋医学の基本となる、解剖学・生理学を習得し他の分野に対応できる力を身につける。人体の仕組みを理解することで、刺鍼部位や経穴の場所も把握する力を身につける。また、授業と問題の演習を行うことで国家試験に対応できる力を身につける。					
到達目標					
・人体の構造と機能A 人体の構造と機能の理解し、鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目的とする。 鍼灸師として人体に施術するにあたって、筋・骨の理解は必須である。 ・人体の構造と機能B 授業内容とともに予習と復習の学習方法を習得し、頭の中で人体の構造がイメージできること・他の授業へとつなげることができることを目標とする。 ・人体の構造と機能C 人体の構造と機能の理解し、鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目的とする。 具体的には「神経」「感覚」について説明できるようになる。 ・人体の構造と機能D 授業内での講義や授業後に確認テストなどを行い、西洋科目の基礎を身につけられるようになる。毎回の授業後の範囲の確認テストを実施することで4択問題に触れることで国家試験に対応できる力を身につけられるようになる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容		
第121回	オリエンテーション	第141回	第10章 内分泌系		
第122回	第8章 消化器系	第142回	第10章 内分泌系		
第123回	第8章 消化器系	第143回	第10章 内分泌系		
第124回	第8章 消化器系	第144回	第11章 生殖・身体の変齢変化		
第125回	第8章 消化器系	第145回	第11章 生殖・身体の変齢変化		
第126回	第8章 消化器系	第146回	第11章 生殖・身体の変齢変化		
第127回	第8章 消化器系	第147回	第11章 生殖・身体の変齢変化		
第128回	第8章 消化器系	第148回	第11章 生殖・身体の変齢変化		
第129回	第8章 消化器系	第149回	復習		
第130回	第8章 消化器系	第150回	復習		
第131回	第8章 消化器系	第151回	練習問題 総復習		
第132回	復習	第152回	定期試験		
第133回	復習	第153回	オンデマンド 総復習 4択問題対策		
第134回	練習問題 総復習	第154回	オンデマンド 総復習 4択問題対策		
第135回	定期試験	第155回	オンデマンド 総復習 4択問題対策		
第136回	第10章 内分泌系	第156回	オンデマンド 総復習 4択問題対策		
第137回	第10章 内分泌系	第157回	オンデマンド 総復習 4択問題対策		
第138回	第10章 内分泌系	第158回	オンデマンド 総復習 4択問題対策		
第139回	第10章 内分泌系	第159回	オンデマンド 総復習 4択問題対策		
第140回	第10章 内分泌系	第160回	オンデマンド 総復習 4択問題対策		
授業時間外の学習					
・人体の構造と機能A 事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。 事後学習：教科書、配布資料等を参考に復習を行う。 ・人体の構造と機能B 予習：次回の授業で行う範囲を読んでくこととその範囲の図解をイメージできるようにする。 復習：今回の授業で行った範囲を再度、読み込むを行い、理解度を確認することと頭の中でイメージできるかの確認を行う。 ・人体の構造と機能C 事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。 事後学習：教科書、配布資料等を参考に復習を行う。 ・人体の構造と機能D 授業内での講義や授業後に確認テスト					
成績評価					
・人体の構造と機能A 定期試験、小テスト、出席などの成績に平常点を加味する。 ・人体の構造と機能B 定期試験の得点（90点分）＋学期中の小テスト（10点分）の100点満点として評価する。 人体の構造と機能（A・B・C・D）のすべての及第点によって単位取得を判定する。 ・人体の構造と機能C 定期試験、小テスト、出席などの成績に平常点を加味する。 ・人体の構造と機能D 1・2・3学期の定期試験での評価 3学期の試験範囲は1・2・3学期の全範囲となる。					
使用テキスト					
・人体の構造と機能A 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用する。 ・人体の構造と機能B 教科書 「解剖生理（医歯薬出版株式会社）」と配布プリント ・人体の構造と機能C 『解剖生理』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用する。 ・人体の構造と機能D 東洋療法学校協会「解剖生理」 東洋療法学校協会「解剖学」 東洋療法学校協会「生理学」					
担当教員の実務経験					
施術所等においてはり師・きゅう師としての実務経験を有する。					

2024年度

科目名	関係法規	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	久住 喜春	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
『関係法規』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用し、座学講義を行う。随時プリントを配布し、適宜参考資料を提供する。終盤の4コマは開業に関する開設届や事業計画書の作成の提出とする。					
到達目標					
「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」について、我々の身分法となっている方の中身（免許・業務・広告・罰則等）の知識を身につける。 また医療関係法規（医師法、医療法、薬機法）や社会福祉関係法規の目的や内容が説明できるようになる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	法とは 「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」①免許について				
第3回	「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」②免許事務				
第4回	「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」③業務について				
第5回	「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」④施術所について				
第6回	「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」⑤名称の制限について				
第7回	「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」⑥広告制限について				
第8回	「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」⑦医業類似行為について 両罰規定、罰金				
第9回	あはきとの関連法規①医療法 その他の法規				
第10回	あはきとの関連法規②その他の法規				
第11回	定期試験（他科目より1週早いため注意）				
第12回	試験解説				
第13回	課題取り組み				
第14回	課題取り組み				
第15回	課題取り組み				
第16回	課題取り組み				
授業時間外の学習					
事後学習：配布プリントと教科書を基に復習を行う。 小テストで間違えた問題を正解できるまでに復習する。					
成績評価					
定期試験9割と小テスト1割でトータル100点で評価する					
使用テキスト					
『関係法規』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を使用					
担当教員の実務経験					
施術所等においてははり師・きゅう師としての実務経験を有する。					

科 目 名		経絡経穴概論		対 象 学 科		鍼灸学科	
担 当 教 員		白崎 史剛		配 当 年 次		1学年	開 講 時 期
				授 業 形 態		講義	単 位
7単位							
授 業 概 要							
この授業では鍼灸師として大切になってくる「ツボ」を学ぶ授業であり、どのようなツボの流れがあり、その「ツボ」の由来、位置、機能を理解する。1学期・2学期に小テストをおこない、どこまで理解しているかを確認する。 また、2学期に実技室にて、「ツボ」を取穴の授業を16回おこなう。最初は筋肉と骨の位置を確認した後、順番に「ツボ」の位置を学んでいく。16回目の授業に要穴を中心とした小テストをおこなう。							
到 達 目 標							
十四経脈の流注、経穴名とその順番、部位を確実に覚え、その「ツボ」を実際の人体で骨度法を使いながら、取穴することができることを目標とする。その経穴についての骨、筋肉、神経、動脈までの理解を目標とする。							
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）							
回数	授業計画・内容			回数	授業計画・内容		
第1回	経絡と経穴 臓腑の概要			第21回	経穴：足の太陽膀胱経（中間）		
第2回	経絡・経穴の概要			第22回	【触診】筋肉と骨（下肢）		
第3回	骨度法・取穴時に関する用語			第23回	経穴：足の太陽膀胱経（後半）		
第4回	五俞穴と五要穴			第24回	【触診】筋肉と骨（下肢）		
第5回	督脈・任脈・手の太陰肺経の流注			第25回	経穴：足の少陰腎経		
第6回	手の陽明大腸経・足の陽明胃経・足の太陰脾経の流注			第26回	【触診】督脈		
第7回	手の少陰心経・手の太陽小腸経・足の太陽膀胱経（前半）の流注			第27回	経穴：手の厥陰心包経 手の少陽三焦経		
第8回	足の太陽膀胱経（後半）・足の少陰腎経・手の厥陰心包経の流注			第28回	【触診】任脈		
第9回	手の少陽三焦経・足の少陽胆経・足の厥陰肝経の流注			第29回	経穴：足の少陽胆経（前半）		
第10回	経穴：督脈			第30回	【触診】手の太陰肺経 手の陽明大腸経		
第11回	経穴：任脈			第31回	経穴：足の少陽胆経（後半） 足の厥陰肝経		
第12回	経穴：手の太陰肺経 手の陽明大腸経			第32回	【触診】足の陽明胃経		
第13回	経穴：足の陽明胃経（前半）			第33回	奇穴と組み合わせ		
第14回	経穴：足の陽明胃経（後半）			第34回	【触診】足の太陰脾経		
第15回	経穴：足の太陰脾経			第35回	奇形八脈とその他の要穴		
第16回	1学期期末試験			第36回	【触診】手の少陰心経 手の太陽小腸経		
第17回	経穴：手の少陰心経 手の太陽小腸経			第37回	現代的研究		
第18回	【触診】筋肉と骨（上肢）			第38回	【触診】足の太陽膀胱経（前半）		
第19回	経穴：足の太陽膀胱経（前半）			第39回	経穴と筋肉（上肢）		
第20回	【触診】筋肉と骨（上肢）			第40回	【触診】足の太陽膀胱経（後半）		
授 業 時 間 外 の 学 習							
予習：次の授業で行う範囲を読んでくこととその図解をイメージしてくること。 復習：今回の授業で行った範囲をもう一度読み込み、理解しているかの確認と暗唱を繰り返し行う。							
成 績 評 価							
学期末の定期試験と授業の出席状況や授業態度を加味して評価を行う。 また、定期試験とは別に行う小テストについても、試験の点数に加味する。 2学期から始まる「触診」の授業については、最後に行う小テストは定期試験には加味しないが、授業の出席状況や授業態度、施術者としての身だしなみ、立ち振る舞いは評価に反映する。							
使 用 テ キ ス ト							
教科書「経絡経穴概論（医道の日本社）」と配布プリント 参考資料「解剖生理学（東洋療法学校協会編 医歯薬出版）」 参考資料「プロメテウス解剖学アトラス（医学書院）」のような図譜が記載されている解剖学や経穴の参考書があるとわかりやすい。							
担 当 教 員 の 実 務 経 験							
施術所等においては師・きゅう師としての実務経験を有する。							

科目名	経絡経穴概論	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	白崎 史剛	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	7単位

授業概要

この授業では鍼灸師として大切になってくる「ツボ」を学ぶ授業であり、どのようなツボの流れがあり、その「ツボ」の由来、位置、機能を理解する。1学期・2学期に小テストをおこない、どこまで理解しているかを確認する。
また、2学期に実技室にて、「ツボ」を取穴の授業を16回おこなう。最初は筋肉と骨の位置を確認した後、順番に「ツボ」の位置を学んでいく。16回目の授業に要穴を中心とした小テストをおこなう。

到達目標

十四経脈の流注、経穴名とその順番、部位を確実に覚え、その「ツボ」を実際の人体で骨度法を使いながら、取穴することができることを目標とする。その経穴についての骨、筋肉、神経、動脈までの理解を目標とする。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第41回	経穴と筋肉（下肢）		
第42回	【触診】足の少陰腎経 手の厥陰心包経		
第43回	経穴と神経		
第44回	【触診】手の少陽三焦経 足の少陽胆経（前半）		
第45回	経穴と動脈		
第46回	【触診】足の少陽胆経（後半） 足の厥陰肝経		
第47回	2学期期末試験		
第48回	触診小テスト（要穴）		
第49回	オンデマンド（国試過去問）		
第50回	オンデマンド（国試過去問）		
第51回	オンデマンド（国試過去問）		
第52回	オンデマンド（国試過去問）		
第53回	オンデマンド（国試過去問）		
第54回	オンデマンド（国試過去問）		
第55回	オンデマンド（国試過去問）		
第56回	オンデマンド（国試過去問）		

授業時間外の学習

予習：次の授業で行う範囲を読んでくこととその図解をイメージしてくること。
復習：今回の授業で行った範囲をもう一度読み込み、理解しているかの確認と暗唱を繰り返す行う。

成績評価

学期末の定期試験と授業の出席状況や授業態度を加味して評価を行う。
また、定期試験とは別に行う小テストについても、試験の点数に加味する。
2学期から始まる「触診」の授業については、最後に行う小テストは定期試験には加味しないが、授業の出席状況や授業態度、施術者としての身だしなみ、立ち振る舞いは評価に反映する。

使用テキスト

教科書「経絡経穴概論（医道の日本社）」と配布プリント
参考資料「解剖生理学（東洋療法学校協会編 医歯薬出版）」
参考資料「プロメテウス解剖学アトラス（医学書院）」のような図譜が記載されている解剖学や経穴の参考書があるとわかりやすい。

担当教員の実務経験

施術所等においては師・きゅう師としての実務経験を有する。

科 目 名	東洋医学概論	対 象 学 科	鍼灸学科		
担 当 教 員	栗 夏美	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	5単位
授 業 概 要					
『新版 東洋医学概論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社発行）を使用し座学講義を行う。 随時配布プリントを使用する。 33回～40回の授業はオンデマンド授業とし、課題を出題する。					
到 達 目 標					
東洋医学における特徴・思想・生理と病理・弁証論治を理解することを目的とする。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容		
第1回	東洋医学の特徴・人体の見方	第21回	四診③		
第2回	陰陽学説・五行学説	第22回	四診④		
第3回	生体物質の生理・病理①	第23回	四診⑤		
第4回	生体物質の生理・病理②	第24回	四診⑥		
第5回	蔵象学説①	第25回	弁証論治①		
第6回	蔵象学説②	第26回	弁証論治②		
第7回	蔵象学説③	第27回	弁証論治③		
第8回	蔵象学説④	第28回	弁証論治④		
第9回	蔵象学説⑤	第29回	治則・治法		
第10回	蔵象学説⑥	第30回	治療法		
第11回	臓腑の相互関係	第31回	弁証論治の流れ		
第12回	全身の気機	第32回	総復習・期末試験		
第13回	東洋医学の特徴・陰陽五行学説	第33回	オンデマンド（症状と臓腑）		
第14回	生体物質と蔵象学説①	第34回	オンデマンド（症状と臓腑）		
第15回	生体物質と蔵象学説②	第35回	オンデマンド（四診合参で考えられる証）		
第16回	総復習・期末試験	第36回	オンデマンド（四診合参で考えられる証）		
第17回	病因・病機	第37回	オンデマンド（症例問題）		
第18回	病機、経絡	第38回	オンデマンド（症例問題）		
第19回	四診①	第39回	オンデマンド（症例問題）		
第20回	四診②	第40回	オンデマンド（症例問題）		
授 業 時 間 外 の 学 習					
教科書、配布資料等による予習・復習					
成 績 評 価					
出席状況、期末試験・小テストの結果、課題の提出により評価する。					
使 用 テ キ ス ト					
『新版 東洋医学概論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社発行）					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
施術所等においてははり師・きゅう師としての実務経験を有する。					

科 目 名	基礎はり・きゅう理論	対 象 学 科	鍼灸学科		
担 当 教 員	菅原 悠衣	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	2単位
授 業 概 要					
医学における基礎研究、臨床研究の発展に伴い、鍼灸の治療効果が解明されつつある。鍼灸の科学的解明により東洋医学と西洋医学の相互理解を深めることが求められている。 本科目では、鍼灸師に必要な鍼術・灸術の定義、施術で使用する用具、方式や術式などの鍼灸治療に対する基礎知識について学習する。					
到 達 目 標					
鍼灸臨床で用いる用具、技術、衛生的処置について理解し説明できるようになる。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス、概論				
第2回	鍼の基礎知識				
第3回	刺鍼の方法と術式①				
第4回	刺鍼の方法と術式②				
第5回	特殊鍼法				
第6回	灸の基礎知識				
第7回	灸術の種類①				
第8回	灸術の種類②				
第9回	鍼灸の臨床応用				
第10回	リスク管理				
第11回	リスク管理				
第12回	定期試験				
第13回	オンデマンド（総復習）				
第14回	オンデマンド（総復習）				
第15回	オンデマンド（総復習）				
第16回	オンデマンド（総復習）				
授 業 時 間 外 の 学 習					
予習：教科書などにより講義内容を把握しておく。 復習：教科書、配布資料を用いて復習を行う。					
成 績 評 価					
定期試験の得点により評価する。					
使 用 テ キ ス ト					
『はりきゅう理論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社）を使用する。					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					

2024年度

科目名	基礎はりきゅう実技Ⅰ	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	内山 美紅	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

医療人の基本となる態度、衛生操作を身につける。鍼実技の基礎基本となる、刺鍼（片手挿管・直刺・斜刺・横刺）の操作が行えるように学ぶ。施術者としてのタオルワークや患者さんへの接し方を学ぶ。医療人としての心構えを持ち施術の一連の流れを行えるように学ぶ。

到達目標

医療人としての接する態度や衛生操作までを含めた一連の流れ。指定された身体の各部位に安全かつ丁寧に刺鍼（片手挿管・直刺・斜刺・横刺）ができるようになる。3年次に行う実技認定試験で指定された刺鍼する部位に刺鍼できるようになる。

1学期 片手挿管（1分間で8回以上）、対人の下腿に刺鍼できるようになる。

2学期 切

皮膚を出さないように刺鍼をする、対人刺鍼で直刺ができるようになる。

3学期 対人刺鍼で直刺・斜刺ができるようになる、特殊刺鍼に対応できるようになる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション（実技室の使い方・説明）	第21回	対人刺鍼 ステンレス鍼 寸3-1（下腿①）
第2回	鍼や道具の説明 今後の流れについて 片手挿管の練習①	第22回	対人刺鍼 ステンレス鍼 寸3-1（下腿②）
第3回	片手挿管の練習②	第23回	対人刺鍼 ステンレス鍼 寸3-1（大腿①）
第4回	片手挿管の練習③	第24回	対人刺鍼 ステンレス鍼 寸3-1（大腿②）
第5回	基本刺鍼動作の流れ・練習①（切皮・弾入・刺入・抜鍼）	第25回	対人刺鍼 ステンレス鍼 寸3-1（上腕・前腕）
第6回	基本刺鍼動作の流れ・練習②デモンストレーション	第26回	対人刺鍼 ステンレス鍼 寸3-1（背部①）
第7回	基本刺鍼動作の練習 切皮・弾入	第27回	対人刺鍼 ステンレス鍼 寸3-1（背部②）
第8回	基本刺鍼動作の練習 直刺	第28回	対人刺鍼 ステンレス鍼 寸3-1（背部③）
第9回	基本刺鍼動作の練習 斜刺	第29回	試験前練習
第10回	個人刺鍼①（下腿のステンレス鍼で自己刺鍼）	第30回	定期試験
第11回	個人刺鍼②（下腿に銀鍼で自己刺鍼）	第31回	定期試験解説・治療の一連の流れ
第12回	対人刺鍼①（下腿に対人刺鍼） タオルワーク	第32回	対人刺鍼 ステンレス鍼 寸6-3（腰部）
第13回	対人刺鍼②（下腿に対人刺鍼）	第33回	対人刺鍼 ステンレス鍼 寸6-3（臀部）
第14回	試験前練習	第34回	対人刺鍼 ステンレス鍼 寸6-3 鍼通電療法①
第15回	定期試験	第35回	対人刺鍼 ステンレス鍼 寸6-3 鍼通電療法②
第16回	定期試験解説・総復習	第36回	対人刺鍼 ステンレス鍼 01番02番03番（顔面部・頭部）
第17回	17手技の説明・練習①（対人刺鍼）	第37回	対人刺鍼（円皮鍼・皮内鍼）
第18回	17手技の説明・練習②（対人刺鍼）	第38回	試験前練習
第19回	17手技の説明・練習③（対人刺鍼）	第39回	定期試験
第20回	17手技の説明・練習④（対人刺鍼）	第40回	定期試験解説・一連の治療の流れ

授業時間外の学習

習ったことを繰り返し反復練習をする

成績評価

1学期・2学期・3学期の定期試験での評価

使用テキスト

東洋療法学校協会「はりきゅう理論」第3版
東洋療法学校協会「はりきゅう実技＜基礎編＞第2版」
図解鍼灸臨床手技マニュアル 第2版

担当教員の実務経験

施術所等においてはり師・きゅう師としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	基礎はりきゅう実技Ⅱ	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	松本 毅、中村 理巧	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

医療人として適切な態度、衛生面を身に付ける。
基礎的な施灸の行える技術と知識を身に付け安全に施灸を行えるようにする。
経穴の特性を理解しながら各種施灸法の訓練を行う。被験者となる学生同士の自主性が求められる内容とする。
灸の基本実技は、比較的行いやすい部位で練習するが、本授業においては体幹部においてへの施灸練習となるため、患者を想定した負担とならない姿勢で行うため身体の斜面など様々な部位への施灸の実技を行う。

到達目標

灸の基本的技術を身に付け実行できるようになることを目標とする。
透熱灸による人体へ配慮した施灸ができるようになる。
1学期：失眠穴へ半米粒大左右どちらかに施灸10壮/3分
2学期：患者を誘導し、決められた経穴を取穴、施灸を行う。各3壮/5分
3学期：失眠穴へ半米粒大2点5壮で10壮以上/3分

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	こより・艾炷の作成	第21回	灸頭鍼
第2回	艾炷の作成練習	第22回	自由練習
第3回	艾炷の作成練習	第23回	試験前練習
第4回	艾炷の点火	第24回	テスト
第5回	自身への施灸	第25回	上背部への施灸
第6回	相手の失眠への施灸	第26回	腰背部への施灸
第7回	下肢前面の施灸	第27回	腰部への施灸
第8回	下肢後面の施灸	第28回	腹部への施灸
第9回	試験前練習	第29回	深谷灸
第10回	テスト	第30回	深谷灸
第11回	失眠へ2点3壮	第31回	試験前練習
第12回	前腕後面への施灸	第32回	テスト
第13回	前腕前面への施灸	第33回	灸の効果について①（最新の知見から）
第14回	足趾・足関節への施灸	第34回	灸の効果について②（最新の知見から）
第15回	手指・手関節・頭部への施灸	第35回	棒灸を作ってみよう①
第16回	隔物灸	第36回	棒灸を作ってみよう②
第17回	知熱灸	第37回	様々な灸を体験しよう①
第18回	吸角	第38回	様々な灸を体験しよう②
第19回	棒灸	第39回	症例別灸治療の実際①
第20回	灸頭鍼	第40回	症例別灸治療の実際②

授業時間外の学習

艾の感触になれる、施灸動作の反復練習、施灸穴の予習

成績評価

定期試験により評価を行う。

使用テキスト

『はりきゅう実技〈基礎編〉』 『はりきゅう理論』 医道の日本社

担当教員の実務経験

施術所等においてはり師・きゅう師としての実務経験を有する。

科目名	臨床実習Ⅰ	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	寺田 奈生、久住 喜春、栗 夏美、内山 美紅、中村 理巧、白崎 史剛、菅原 悠衣	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	外部実習	単位	1単位

授業概要

臨床実習Ⅰは治療院実習であり、治療院とは鍼灸治療が行われる施術所を指す。一般に「鍼灸院」「鍼灸整骨院」と呼ばれる施設を実習の場とする。

臨床実習Ⅰは「治療院の流れ」がテーマ。

開院から閉院までの1日の流れ、患者さんの来院からお帰りになるまでの流れなどを見学する。

- ・開院時間と閉院時間
- ・最寄りの交通機関から院までの経路
- ・各時間帯での患者さんの人数、スタッフの休憩時間と過ごし方
- ・予約制か飛び込みか（待ち時間の有無）
- ・患者さんとスタッフの動線（人の流れ）
- ・来院から治療ブースに入られるまで、診断・診察、治療時間、生活指導などのクロージング、治療終了から院を出られるまでの各所要時間
- ・疾患の種類と治療に要する時間
- …など

各治療院ごとに特徴がそれぞれあり、さまざまなスタイルがあるため、臨床実習Ⅰでは20時間ずつ2院を見学する。

最後はそれぞれ見学した治療院にどんな特徴があったのかをクラス内で報告し、情報共有を行う時間とする。

到達目標

鍼灸師のタイムスケジュール、フローを観察し、治療院での働き方を知る。

限られた治療時間の中で患者さんの満足度を上げるための工夫、時間配分、説明の仕方などを見て学び、実際に自分が働く姿をイメージできる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

[illegible]

授業時間外の学習

実習先に向かうにあたり、社会人として必要なマナーやルール（個人情報の取り扱いなど）を学ぶための事前準備時間を設ける。

実習時間は1日4時間（半日）、または8時間（1日）となるが、毎回帰宅後に実習日報にてその日あったことや、感じたことなどを記し、後日学校に提出する。

成績評価

実習先指導者による評価、実習日報の提出状況・内容、実習報告会の内容などから総合的に評価を行う。

使用テキスト

担当教員の実務経験

施術所等においては、師・きゅう師としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	情報処理	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	赤池 美紀	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位

授業概要

パソコンに関する知識・能力は、学校だけでなく仕事やプライベートなど様々なシーンで活用が求められます。本授業では、ワード、エクセル、パワーポイントという3つのOfficeアプリケーションの基礎的な操作方法を学びます。またその操作に不可欠なタイピングについても学びます。

到達目標

①基礎的なワード、エクセル、パワーポイントを使うことができるようになる。②タッチタイピングを修得するためのプロセスを体験することができるようになる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

[illegible]

授業時間外の学習

毎回授業で学んだことは、授業後に自分一人でも実施できるようにしてください。そのために各々に必要な時間を、確保してください。

成績評価

授業参加姿勢 (50%)、最終課題提出・完成度 (50%)

使用テキスト

なし

担当教員の実務経験

2024年度

科目名	運動学	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	小野寺 文人	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

『リハビリテーション医学 改訂第4版』（土肥信之・出江紳一・関勝著、医歯薬出版株式会社）を使用し座学・演習を行う。
随時参考資料を提示する。

到達目標

運動のしくみ、運動学の基礎・身体各部の機能について理解を深めることを目標とする。
具体的には、「関節運動力学」「姿勢異常」「運動路・感覚路」「反射・随意運動」「身体各部の筋・関節・神経の構造と機能」「正常歩行・異常歩行」「顔面頭部の筋」などについて理解し説明できるようになる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	関節と運動の力学、軸と面
第2回	関節と運動の力学、テコ
第3回	姿勢とその異常
第4回	運動路と感覚路・反射と随意運動
第5回	1b実践・MMT判断基準と実践・深部腱反射とデルマトーム
第6回	正常歩行と異常歩行
第7回	正常歩行と異常歩行
第8回	脊柱・体幹の機能
第9回	脊柱・体幹の機能
第10回	肩甲帯・肩の機能
第11回	肩甲帯・肩の機能
第12回	肘と前腕の機能
第13回	手と手指の機能
第14回	足の機能
第15回	骨盤と股関節の機能
第16回	膝関節の機能
第17回	(はき)運動学国家試験過去問の解説・定期試験対策
18回	(あまし)運動学国家試験過去問の解説・定期試験対策
第19回	徒手検査法国家試験過去問の解説・定期試験対策
第20回	定期試験

授業時間外の学習

事前学習：教科書等により講義内容を把握しておく。
事後学習：教科書・配布資料などを参考に復習を行う。

成績評価

定期テスト 9 割・小テスト 1 割で成績確定。

使用テキスト

『リハビリテーション医学 改訂第4版』（土肥信之・出江紳一・関勝著、医歯薬出版株式会社）を使用する。

担当教員の実務経験

科 目 名	病理学	対 象 学 科	鍼灸学科		
担 当 教 員	山田 善章	配 当 年 次	2学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	5単位
授 業 概 要					
『病理学概論』（東洋療法学校協会、医歯薬出版株式会社）を使用し、座学講義を行う。					

科目名	臨床医学総論	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	菅原 悠衣	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位
授業概要					
近年、健康意識の高まりから予防医学や統合医療においても東洋療法の幅が広がっている。また、現代医療ではチーム医療の重要性が再認識されている。チーム医療を安全かつ効果的に実践するには、すべての医療職種が適切な診察法を理解し、主たる症候に精通しておくことが必須である。鍼灸師においても、医療面接から始まる診察の概要を理解し、実践できることが必要となる。 本科目では、西洋医学的な病態把握・診察法について学習する。					
到達目標					
鍼灸臨床現場での判別をするための知識を身につけることを目的とする。 「診察」「カルテの書き方」「生命徴候」「身体の病的特徴」「神経系の病的特徴」「運動機能の病的特徴」「症候」「検査法」「臨床心理」について理解し説明できるようになる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容		回数	授業計画・内容	
第1回	オリエンテーション（科目の説明）		第21回	オンデマンド（神経系の診察）	
第2回	第1章 診察の概要		第22回	オンデマンド（神経系の診察）	
第3回	第2章 診察の方法（医療面接、視診、触診、打診）		第23回	オンデマンド（運動機能検査）	
第4回	第2章 診察の方法（聴診、測定法、神経系診察）		第24回	オンデマンド（臨床検査法）	
第5回	第3章 生命徴候の診察（体温、脈拍）		第25回	第5章 局所の診察（背部）	
第6回	第3章 生命徴候の診察（血圧）		第26回	第5章 局所の診察（四肢）	
第7回	第3章 生命徴候の診察（呼吸）		第27回	第6章 神経系の診察（感覚検査法）	
第8回	第4章 全身の診察（顔貌、精神状態）		第28回	第6章 神経系の診察（反射検査）	
第9回	第4章 全身の診察（言語、身体計測）		第29回	第6章 神経系の診察（反射検査）	
第10回	第4章 全身の診察（体格、栄養状態、姿勢）		第30回	第6章 神経系の診察（脳神経系の検査）	
第11回	第4章 全身の診察（歩行、皮膚）		第31回	第6章 神経系の診察（脳神経系の検査、その他神経学的検査）	
第12回	第4章 全身の診察（皮膚、爪の状態、リンパ節）		第32回	第7章 運動機能検査（運動麻痺）	
第13回	第5章 局所の診察（頭部、顔面、眼、鼻、耳）		第33回	第7章 運動機能検査（筋肉の異常）	
第14回	第5章 局所の診察（口腔、頸部、胸部、乳房、肺・胸膜）		第34回	第7章 運動機能検査（不随意運動）	
第15回	第5章 局所の診察（心臓、腹部）		第35回	第7章 運動機能検査（協調運動、起立と歩行）	
第16回	定期試験		第36回	第7章 運動機能検査（徒手検査）	
第17回	オンデマンド（生命徴候の診察）		第37回	第8章 その他の診察	
第18回	オンデマンド（全身の診察）		第38回	第9章 臨床検査法（一般検査）	
第19回	オンデマンド（全身の診察）		第39回	第9章 臨床検査法（血液生化学検査、画像診断）	
第20回	オンデマンド（局所の診察）		第40回	定期試験	
授業時間外の学習					
予習：教科書などにより講義内容を理解しておく。 復習：教科書、配布資料を用いて復習を行う。					
成績評価					
定期試験、小テスト、出席で評価する。					
使用テキスト					
『臨床医学総論 第2版』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版株式会社）を使用する。					
担当教員の実務経験					

科目名	臨床医学各論	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	久住 喜春	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	10単位
授業概要					
西洋医学における病名・病態生理・症状・治療法まで一貫して学び、国家試験合格に繋げる点数を獲得出来る状態にし、鍼灸の適不適を判断できるような知識を身に着けることを目的とする。					
到達目標					
第1：国家試験当日に22問中で17問以上（8割）の点数を取れるようにする。 また、別科目の臨床医学総論、病理学、解剖学、生理学と関連付け柔軟な思考を持ち、点数を獲得できるようにする。					
第2：現場で鍼灸不適應を見逃さないような知識を身につける。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容		回数	授業計画・内容	
第1回	オリエンテーション(キャリア支援課の授業)		第21回	内分泌疾患④	
第2回	第2章 消化管疾患①		第22回	第7章 代謝・栄養疾患①	
第3回	消化管疾患②		第23回	代謝・栄養疾患②	
第4回	消化管疾患③		第24回	代謝・栄養疾患③	
第5回	消化管疾患④		第25回	代謝・栄養疾患④ 第8章 整形外科疾患①	
第6回	消化管疾患⑤		第26回	整形外科疾患②	
第7回	消化管疾患⑥		第27回	整形外科疾患③	
第8回	消化管疾患⑦		第28回	整形外科疾患④	
第9回	消化管疾患⑧ 第3章 肝・胆・膵疾患①		第29回	整形外科疾患⑤	
第10回	肝・胆・膵疾患②		第30回	整形外科疾患⑥	
第11回	肝・胆・膵疾患③		第31回	定期試験	
第12回	肝・胆・膵疾患④ 第4章 呼吸器疾患①		第32回	試験解説	
第13回	呼吸器疾患②		第33回	整形外科疾患⑦	
第14回	呼吸器疾患③		第34回	整形外科疾患⑧	
第15回	呼吸器疾患④ 第5章 腎・泌尿器疾患①		第35回	整形外科疾患⑨	
第16回	腎・泌尿器疾患②		第36回	整形外科疾患⑩	
第17回	腎・泌尿器疾患③		第37回	整形外科疾患⑪	
第18回	腎・泌尿器疾患④ 第6章 内分泌疾患①		第38回	整形外科疾患⑫	
第19回	内分泌疾患②		第39回	整形外科疾患⑬	
第20回	内分泌疾患③		第40回	整形外科疾患⑭	
授業時間外の学習					
教科書、プリント、参考書、インターネットを用いて予習復習を行う。 国家試験の過去問、模擬試験を活用し4択問題の傾向や問い方に慣れる。					
成績評価					
出席日数が規定以上を満たしている、期末試験は100点満点の0.9掛けで90点満点とし、残り10点分は小テストの成績を反映し、各学期ごとに60点以上の取得により単位を認める。					
使用テキスト					
臨床医学各論＜第2版＞医歯薬出版 臨床医学各論追加資料					
担当教員の実務経験					
施術所等においてはり師・きゅう師としての実務経験を有する。					

科目名	臨床医学各論	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	久住 喜春	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	10単位

授業概要
西洋医学における病名・病態生理・症状・治療法まで一貫して学び、国家試験合格に繋げる点数を獲得出来る状態にし、鍼灸の適不適を判断できるような知識を身に着けることを目的とする。

到達目標
第1：国家試験当日に22問中で17問以上（8割）の点数を取れるようにする。 また、別科目の臨床医学総論、病理学、解剖学、生理学と関連付け柔軟な思考を持ち、点数を獲得できるようにする。
第2：現場で鍼灸不適応を見逃さないような知識を身につける。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）			
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第41回	整形外科疾患⑮	第61回	定期試験
第42回	整形外科疾患⑯ 第9章 循環器疾患①	第62回	試験解説
第43回	循環器疾患②	第63回	第13章 その他の疾患①
第44回	循環器疾患③	第64回	その他の疾患②
第45回	循環器疾患④	第65回	その他の疾患③
第46回	循環器疾患⑤ 第10章 血液・造血器疾患①	第66回	その他の疾患④
第47回	血液・造血器疾患②	第67回	その他の疾患⑤
第48回	血液・造血器疾患③ 第11章 神経疾患①	第68回	その他の疾患⑥
第49回	神経疾患②	第69回	その他の疾患⑦ 第1章 感染症①
第50回	神経疾患③	第70回	感染症②
第51回	神経疾患④	第71回	感染症③
第52回	神経疾患⑤	第72回	感染症④
第53回	神経疾患⑥	第73回	オンデマンド1
第54回	神経疾患⑦	第74回	オンデマンド2
第55回	神経疾患⑧	第75回	オンデマンド3
第56回	神経疾患⑨	第76回	オンデマンド4
第57回	神経疾患⑩ 第12章 リウマチ疾患①	第77回	オンデマンド5
第58回	リウマチ疾患②	第78回	オンデマンド6
第59回	リウマチ疾患③	第79回	オンデマンド7
第60回	リウマチ疾患④	第80回	オンデマンド8

授業時間外の学習
教科書、プリント、参考書、インターネットを用いて予習復習を行う。 国家試験の過去問、模擬試験を活用し4択問題の傾向や問い方に慣れる。

成績評価
出席日数が規定以上を満たしている、期末試験は100点満点の0.9掛けで90点満点とし、残り10点分は小テストの成績を反映し、各学期ごとに60点以上の取得により単位を認める。

使用テキスト
臨床医学各論＜第2版＞医歯薬出版 臨床医学各論追加資料

担当教員の実務経験
施術所等においては師・きゅう師としての実務経験を有する。

科目名	臨床はり・きゅう学	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	佐々木 皓平	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

現代医療と鍼灸施術の連携を視野に入れ、運動器疾患を中心に各疾患の病態とルーティーンで用いられる検査法を学習する。後半では鍼灸治効理論をもとにした患者の鍼灸治療計画の考え方を養う。

到達目標

“臨床現場で遭遇する機会の多い運動器疾患を中心に

- ①主観的（医療面接）と客観的（徒手検査法）な情報から病態を把握すること。
- ②病態把握をした症状に対して人体の構造と機能から鍼灸治療の適否を見極められること。
- ③鍼灸の治効機序に基づき、治療法を選択し鍼灸施術を安全に、そして正確に行えること。
- ④インフォームドコンセントを理解し、鍼灸施術の適否が判断できる医療面接を行えること。
- ⑤インフォームドコンセントを理解し、正確で再現性と安全性の高い徒手検査法を行えること。
- ⑥①～⑤についてカルテ（施術録）に客観的に正確に記載すること。

以上すべての事項を人体の構造と機能、鍼灸治効理論の観点から理解し臨床に適用させることができること。”

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション・ガイダンス	第21回	腰殿下肢痛④ 筋筋膜性疼痛・椎間関節性疼痛
第2回	臨床（病態把握）の基本	第22回	腰殿下肢痛まとめ
第3回	上肢の神経とデルマトーム（腱反射）	第23回	膝関節痛① 変形性膝関節症
第4回	下肢の神経とデルマトーム（腱反射）	第24回	膝関節痛② 前十字靱帯損傷
第5回	表在反射・病的反射・非恒常的な反射	第25回	膝関節痛③ 後十字靱帯/後外側支持機構損傷
第6回	頸肩腕痛① 頸椎椎間板ヘルニア	第26回	膝関節痛④⑤ 内・外側側副靱帯損傷
第7回	頸肩腕痛② 胸郭出口症候群	第27回	膝関節痛⑥ 半月板損傷
第8回	頸肩腕痛③ 肩こり	第28回	膝関節痛まとめ
第9回	頸肩腕痛④ 頸椎椎間関節性疼痛	第29回	医療面接について①
第10回	頸肩腕痛⑤ 靱帯骨化症	第30回	医療面接について②
第11回	肩関節痛① インピンジメント症候群	第31回	鍼灸カルテの記載方法①
第12回	肩関節痛② 腱板断裂	第32回	鍼灸カルテの記載方法②
第13回	肩関節痛③ 上腕二頭筋長頭腱損傷	第33回	ケーススタディ①
第14回	肩関節痛④ 凍結肩	第34回	ケーススタディ②
第15回	頸肩腕痛・肩関節痛まとめ	第35回	ケーススタディ③
第16回	定期試験	第36回	ケーススタディ④
第17回	定期試験返却、解説	第37回	ケーススタディ⑤
第18回	腰殿下肢痛① 腰椎椎間板ヘルニア	第38回	ケーススタディ⑥
第19回	腰殿下肢痛② 梨状筋症候群	第39回	定期試験
第20回	腰殿下肢痛③ 腰部脊柱管狭窄症	第40回	定期試験解説

授業時間外の学習

解剖学（特に運動器）の基礎的な知識の復習
各自配布資料を基にした自学自習

成績評価

出席状況、授業参加態度（発言・提出物を含む）、定期試験の結果から総合的に評価

※注意：試験、課題等で不正があった場合に関してはその後の成績評価をしない。

使用テキスト

配布資料

担当教員の実務経験

施術所等においてははり師・きゅう師としての実務経験を有する。

科 目 名	東洋医学臨床論	対 象 学 科	鍼灸学科		
担 当 教 員	中村 理巧	配 当 年 次	2学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	10単位
授 業 概 要					
東洋医学臨床論は、各疾患に対して診察の結果をもとに、治療の適不適を判断し、適切な鍼灸治療が行えるようにする。 自分が担当する時間では、東洋医学的なアプローチを考える。					
到 達 目 標					
各症状から証を立てることができる。 証に対して、適切な治則・治法を考え、治療の組み立てができる。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容		
第1回	東医臨とは、授業についての説明、その他Q&A	第21回	オンデマンド		
第2回	治療原則、治法	第22回	オンデマンド		
第3回	治療穴と主治、選穴、配穴	第23回	オンデマンド		
第4回	頭痛	第24回	オンデマンド		
第5回	顔面麻痺、顔面痛	第25回	脱毛症、排尿障害		
第6回	眼精疲労、めまい	第26回	耳鳴り・難聴		
第7回	気分障害	第27回	ED、浮腫		
第8回	睡眠障害	第28回	発熱		
第9回	食欲不振、歯痛	第29回	冷え、のぼせ		
第10回	便秘、下痢	第30回	疲労と倦怠感		
第11回	悪心・嘔吐	第31回	歩行異常、出血（痔）、夜尿症		
第12回	やせ、肥満	第32回	小児喘息、かんの虫		
第13回	咳嗽と喀痰	第33回	月経異常（経早、経遅）		
第14回	呼吸困難	第34回	月経異常（経乱、更年期、帯下）		
第15回	鼻閉・鼻汁	第35回	月経異常（PMS、痛経）		
第16回	テスト	第36回	性器出血、不妊症		
第17回	オンデマンド	第37回	骨盤位（逆子）、乳汁分泌不全、つわり		
第18回	オンデマンド	第38回	夜尿症、 疳の虫		
第19回	オンデマンド	第39回	まとめ		
第20回	オンデマンド	第40回	テスト		
授 業 時 間 外 の 学 習					
教科書などにより、講義内容を把握しておく。 教科書、配布資料を参考に予習、復習を行う。					
成 績 評 価					
期末試験が90％、小テストが10％で評価を行う。 小テストは試験前に問題集を配り、それを期限までに提出したものを採点し評価を行う。					
使 用 テ キ ス ト					
授業は配布プリントを中心に行う。 教科書『東洋医学臨床論』（東洋療法学校協会編、南江堂発行）					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
施術所等においてははり師・きゅう師としての実務経験を有する。					

2024年度

科 目 名	東洋医学臨床論	対 象 学 科	鍼灸学科		
担 当 教 員	中村 理巧	配 当 年 次	2学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	10単位

授業概要

東洋医学臨床論は、各疾患に対して診察の結果をもとに、治療の適不適を判断し、適切な鍼灸治療が行えるようにする。自分が担当する時間では、東洋医学的なアプローチを考える。

到達目標

各症状から証を立てることができる。
証に対して、適切な治則・治法を考え、治療の組み立てができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

[illegible]

授業時間外の学習

教科書などにより、講義内容を把握しておく。
教科書、配布資料を参考に予習、復習を行う。

成績評価

期末試験が90%、小テストが10%で評価を行う。
小テストは試験前に問題集を配り、それを期限までに提出したものを採点し評価を行う。

使用テキスト

授業は配布プリントを中心に行う。
教科書『東洋医学臨床論』（東洋療法学校協会編、南江堂発行）

担当教員の実務経験

施術所等においてはり師・きゅう師としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	応用はりきゅう実技Ⅰ	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	森 孝史	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

- ・演習、実技形式の授業で切診技術を中心に東洋医学的鍼灸施術を学ぶ。
- ・古典「難経」を読み、東洋医学的鍼灸施術の理解を深める。
- ・東洋的な考え方に基づく治療法である「積聚治療」を習得する。

到達目標

- ・四診技術を身に着け、臨床に応用出来るようになる。
- ・古典に少しでも興味を持てるようになる。
- ・「積聚治療」の基本治療の手順、補助治療を習得して、実際の臨床に使用出来るようになる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス・刺鍼練習・施灸練習	第21回	治療の終了（座位）、実技（座位での刺鍼、基本刺鍼）
第2回	東洋医学・伝統鍼灸について、四診、古典（素問・靈樞・難経）紹介、「素問」上古天真論篇 第1	第22回	基本治療の手順 実技試験（1組目）
第3回	「難経」：脈診（N1・N8・N23・N2）	第23回	基本治療の手順 実技試験（2組目）
第4回	比較脈診（六部定位脈診：N18）、脈診治療（N69）	第24回	基本治療の手順 実技試験（3組目）
第5回	脈診治療（N69）、腹診（N55、N56）	第25回	積聚治療基本治療の手順 筆記試験
第6回	脈診・腹診小テスト、知熱灸、刺鍼練習・施灸練習	第26回	補助治療（積に従った要穴治療）
第7回	積聚治療の概要、実技供覧、SJ銀鍼の基本操作［スライド使用］	第27回	補助治療（井穴・榮穴・兪穴）
第8回	積聚治療理論［スライド使用］	第28回	基本刺鍼、積聚治療基本治療の手順 実技確認1-1
第9回	積聚治療理論、基本刺鍼練習［スライド使用］	第29回	補助治療講義（浅い気）、積聚治療基本治療の手順 実技確認1-2
第10回	腹部接触鍼、指標理論（膝周辺）	第30回	補助治療講義（深い気）、積聚治療基本治療の手順 実技確認1-3
第11回	脈診、腹部接触鍼の復習	第31回	刺鍼技術、補助治療（散鍼・円鍼・鍔鍼・灸頭鍼実技）
第12回	脈診の練習	第32回	病証、補助治療（長鍼実技・大鍼供覧）
第13回	脈調整、治療実技（～脈調整）	第33回	お互いに治療 2-1（基本治療+補助治療）
第14回	腹部の区分と腹診の仕方、実技（腹部区分マーク）	第34回	お互いに治療 2-2（基本治療+補助治療）
第15回	腹部区分筆記試験、腹診の復習	第35回	お互いに治療 2-3（基本治療+補助治療）
第16回	腹部区分と腹診の復習、治療実技（～腹証決定）	第36回	お互いに治療 3-1（基本治療+補助治療）
第17回	背部縦横の区分、実技（背部区分マーク）	第37回	お互いに治療 3-2（基本治療+補助治療）
第18回	背部接触鍼、指標、実技（指標マーク）	第38回	お互いに治療 3-3（基本治療+補助治療）
第19回	背部接触鍼、背部取穴、実技（背部取穴マーク）	第39回	補助治療（督脈知熱灸）
第20回	治療実技（～背部4穴刺鍼）	第40回	総復習、治療供覧、質疑応答

授業時間外の学習

- ・刺鍼練習、施灸練習を各自行う。
- ・各授業の復習をし、手順や技術を憶える。

成績評価

- ・実技試験、筆記試験、課題&提出物の成績に出席状況（欠席5点減点）を加味し、評価する。60点以上を合格とする。
- 1学期：脈診・腹診小テスト（56点）[第6回]・脈診課題（10点）[第12回]・腹部区分筆記試験（44点）[第15回]・出席状況（減点）で評価する。
- 2学期：積聚治療基本治療の手順 実技試験&筆記試験（50点×2）[第22～25回]・出席状況（減点）で評価する。
- 3学期：出席状況（8回×5点）と施術者時カルテ提出（2回×25点）助手時評価表提出（2回×5点）で評価する。

使用テキスト

- ・プリント教材配布
- ・ポケットガイド [第2回]
- ・スライド [第7～9回]

担当教員の実務経験

施術所等においてははり師・きゅう師としての実務経験を有する。

科目名	応用はりきゅう実技Ⅱ	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	佐々木 皓平	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位
授業概要					
昨今、鍼灸は様々な場で活用が期待されている。本時では特に整形外科を始めとする西洋医学の領域で鍼灸師が円滑に医療連携を行うために、体表解剖・触察の知識と、刺鍼の正確性を養うための科目である。					
到達目標					
臨床現場で治療する機会の多い主な筋を中心に ①組織を選択し正確に触察できる。 ②組織を選択し正確に再現性のある刺鍼ができる。 ③自身の触察、刺鍼している選択した組織を解剖学的に説明ができる。 ④自身の治療対象に選択した組織の所見をカルテに論理的に記載できる。 上記①～④を踏まえた上で、鍼通電療法について学習し、同職種、他職種間でのコミュニケーションに齟齬のない知識技能を習得することを目的とする。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容		回数	授業計画・内容	
第1回	オリエンテーション・ガイダンス		第21回	復習② 肩関節部	
第2回	鍼通電療法の基本①（刺鍼練習）		第22回	鍼通電療法 多裂筋（最長筋、腸肋筋）	
第3回	鍼通電療法の基本②（刺鍼練習）		第23回	鍼通電療法 多裂筋（最長筋、腸肋筋）	
第4回	鍼通電療法の基本③（刺鍼練習）		第24回	鍼通電療法 中殿筋、大腿筋膜張筋	
第5回	鍼通電療法の基本④（刺鍼練習）		第25回	鍼通電療法 内側広筋斜頭、外側広筋斜走線維	
第6回	鍼通電療法の基本⑤（刺鍼練習）		第26回	復習③ 腰殿部	
第7回	鍼通電療法の基本⑥（刺鍼練習）		第27回	鍼通電療法 内側広筋斜頭、外側広筋斜走線維、大腿直筋	
第8回	鍼通電療法 僧帽筋上部線維		第28回	鍼通電療法 大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋①	
第9回	鍼通電療法 僧帽筋上部線維		第29回	鍼通電療法 大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋②	
第10回	鍼通電療法 僧帽筋上部線維		第30回	復習④ 膝関節部	
第11回	鍼通電療法 僧帽筋鎖骨部（頸部）線維		第31回	定期試験	
第12回	鍼通電療法 僧帽筋鎖骨部（頸部）線維		第32回	鍼通電療法 予備	
第13回	鍼通電療法 僧帽筋鎖骨部（頸部）線維		第33回	ケーススタディ①	
第14回	復習① 頸肩部		第34回	ケーススタディ②	
第15回	定期試験		第35回	ケーススタディ③	
第16回	鍼通電療法 予備		第36回	ケーススタディ④	
第17回	鍼通電療法 棘上筋、棘下筋、小円筋		第37回	ケーススタディ⑤	
第18回	鍼通電療法 棘上筋、棘下筋、小円筋		第38回	本時の総括	
第19回	鍼通電療法 大円筋、広背筋、		第39回	定期試験	
第20回	鍼通電療法 大円筋、広背筋、		第40回	定期試験解説	
授業時間外の学習					
安全性に配慮したうえで刺鍼・通電練習を実技室開放日に行うことが望ましい 各自配布資料を基にした自学自習（特に解剖学的知識の復習）					
成績評価					
出席状況、授業参加態度（発言・提出物を含む）、定期試験の結果から総合的に評価					
※注意 試験、課題等で不正があった場合にはその後の成績評価をしない。					
使用テキスト					
配布資料					
担当教員の実務経験					
施術所等においてはり師・きゅう師としての実務経験を有する。					

科 目 名	応用はりきゅう実技Ⅲ	対 象 学 科	鍼灸学科		
担 当 教 員	栗 夏美	配 当 年 次	2学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	1単位
授 業 概 要					
配布資料を参考に、身体に触れる演習を行う。					

2024年度

科目名	臨床実習Ⅱ	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	寺田 奈生、久住 喜春、栗 夏美、内山 美紅、中村 理巧、白崎 史剛、菅原 悠衣	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	外部実習	単位	1単位

授業概要

臨床実習Ⅱは治療院実習であり、治療院とは鍼灸治療が行われる施術所を指す。

一般に「鍼灸院」「鍼灸整骨院」と呼ばれる施設を実習の場とする。

臨床実習Ⅱは「治療の内容」がテーマ。

- ・診察・診断の方法を見学
- ・診察においては医療面接の内容とその流れ、検査項目の選び方や順序をみて、指導者の先生がどんなことを考えて行っているのかを想像する
- ・なぜその診断に至ったのか、診断決定に至る決定的な所見は何だったのかを考える
- ・鍼灸施術部位の選定とその理由を考える

到達目標

- ・先生の診察・診断・治療をみる中で、なぜこの質問をしているのか、なぜこの検査が必要なのか、なぜこの施術部位（または経穴）を選んでいるのかを自分なりに考察できる。
- ・根拠（理由）のある診断・治療についてどのように説明（インフォームド Consent）すれば一般の患者さんに理解してもらえるのか、その言葉選びを学ぶ。
- ・自分がもしこの患者さんをみるなら、どんな診察方法が必要か、どんな診断が考えられるか、どんな部位を施術するのかを想像し、その根拠・理由を説明できるかシュミレーションできる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

[illegible]

授業時間外の学習

実習先に向かうにあたり、社会人として必要なマナーやルール（個人情報取り扱いなど）を学ぶための事前準備時間を設ける。

実習時間は1日4時間（半日）、または8時間（1日）となるが、毎回帰宅後に実習日報にてその日あったことや、感じたことなどを記し、後日学校に提出する。

成績評価

実習先指導者による評価、実習日報の提出状況・内容、実習報告会の内容などから総合的に評価を行う。

使用テキスト

担当教員の実務経験

施術所等においては師・きゅう師としての実務経験を有する

2024年度

科目名	施設実習	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	寺田 奈生	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	外部実習	単位	1単位

授業概要

施設実習では治療院以外のフィールドで、鍼灸師が働くことのできる現場を見学し、治療院とは違った鍼灸師の働き方を学ぶ。

- ①スポーツトレーナー実習（スポーツトレーナー）
- ②整形外科実習（リハビリ部門スタッフ）
- ③リハビリ実習（有料の脳梗塞リハビリでの鍼灸師）
- ④機能訓練実習（デイケアサービスなどを手掛ける介護事業所での機能訓練指導員）

今回はこの4つの実習先で見学実習を行う。

到達目標

治療院以外での鍼灸師が働けるフィールドを見て、それぞれの分野に必要な知識・技能を知る。
他の介護職や医療業種の人たちとの連携の様子をみる。
鍼灸師とは何なのか？他の職業の人に理解してもらうにはどんな説明が必要なのかを考える。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

[illegible]

授業時間外の学習

見学実習後、1週間以内にデイリーノート（実習日報）の提出を行うこと。
機能訓練実習では実際の利用者様をモデルに運動プログラムを自分なりに考えて作成・提出する。

成績評価

実習担当者からの評価、デイリーノートの記載内容、運動プログラム計画書から成績評価を行う。

使用テキスト

担当教員の実務経験

コーディネーターであるため、特になし。

科 目 名	薬膳学 2	対 象 学 科	鍼灸学科		
担 当 教 員	和田 佐和子	配 当 年 次	3学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	2単位
授 業 概 要					
中医学の基礎理論に基づき、食物を用いた病の予防や健康維持、治療などについて研究する学問を「中医栄養学」といい、薬膳とはこの理論に基づいた食養生法である。中医学の基礎理論に基づき「医食同理、薬食同源」の原則によって様々な食物と中薬を組み合わせ、その効能を発揮させ、病を予防、治療、回復を目指す薬膳の基礎から、季節の食養生、鍼灸治療と密接にかかわる各種疾患の薬膳について学ぶ。					
到 達 目 標					
中医学の基礎理論と、季節の薬膳、各疾患に応じて、薬膳を組み立て食生活に摂り入れられるようになり、実際の鍼灸治療と合わせて患者へのアドバイスが行えるようになる。さらに、食材が持つ食性や効能について理解し、症状にあわせて的確に食材を選択できるようになる。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス 薬膳を科学する				
第2回	栄養学と薬膳学を組み合わせた食事学とは				
第3回	食事で「気」を補うことの意味を考える				
第4回	弁証施膳 体質を分析して施膳する手順 1				
第5回	弁証施膳 体質を分析して施膳する手順 2				
第6回	気虚（脾気虚）の食事				
第7回	気虚（肺気虚）の食事				
第8回	気虚（腎気虚）の食事				
第9回	気虚（心気虚）の食事				
第10回	陽虚の食事				
第11回	血虚の食事				
第12回	陰虚の食事				
第13回	気鬱・血瘀の食事				
第14回	痰湿の食事				
第15回	感冒の食事				
第16回	試験				
授 業 時 間 外 の 学 習					
事前学習：東洋医学概論、薬膳学 1 の講義の教科書、配布物を読んてくる。。 事後学習：講義ノートや配布資料を見直し、知らない言葉の意味はわかったか、読んでも理解できなかったことは理解できたかを確認し、理解が出来たら覚えるということを繰り返し、日々興味をもって食事をする。					
成 績 評 価					
試験にて評価。					
使 用 テ キ ス ト					
梁蓓「すこやかな身体をつくる 薬膳食材大全」アブリスタイル					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					

2024年度

科目名	健康科学	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	今井 公一	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
「知識だけでは良い指導は出来ないが、知識がないと良い指導は出来ない」を基本に、指導者として最低限理解しなくてはならない知識を習得し、その知識を現場で活かせるように可能な限り実践も交えながら進めていく。 (4号館 1F柔道場にて実施)					
到達目標					
1) 理論だけではなく、実際の指導現場の事例（トレーニングやストレッチの効果）も挙げながら生きた知識を得る。 2) 筋力トレーニングやストレッチの種類について理解し、説明・実施することができる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	健康とは				
第2回	トレーニングの原理と原則				
第3回	自体重トレーニング（上肢）				
第4回	自体重トレーニング（下肢）				
第5回	体幹トレーニング				
第6回	ストレッチの種類と効果				
第7回	セルフストレッチ（上肢）				
第8回	セルフストレッチ（下肢）				
第9回	パートナーストレッチ（上肢）				
第10回	パートナーストレッチ（下肢）				
第11回	ファンクショナルトレーニング				
第12回	コーディネーショントレーニング				
第13回	栄養について				
第14回	心肺蘇生法				
第15回	定期試験				
第16回	総括				
授業時間外の学習					
事前学習：特に必要はありませんが、良いコンディションで授業に臨んでください。 事後学習：講義で取り扱った内容を復習（実践）する。					
成績評価					
年間出席の2/3以上の出席と定期試験及び小テスト					
使用テキスト					
適宜指示する					
担当教員の実務経験					

科目名	リハビリテーション実践	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	渡辺 長	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

1学期のリハビリテーション医学で学んだことを基礎として、加齢障害をテーマに高齢者に特有の疾患や概念、高齢者を取り巻く環境、とりわけ介護保険分野で活躍する鍼灸師に求められる環境設定の考え方やアプローチ方法を具体的に解説する。また後半は、国試の過去問を用いながら1学期で学んだ主要範囲を包括的に復習していくことで、リハビリテーションの理論と実践を身に着ける。また実技演習も交えて実践的内容についても学んでいく。

到達目標

- ・高齢化にまつわる日本社会や経済の変動と医療専門職が置かれた状況を理解する。
- ・リハビリテーションの本義的観点から患者アプローチを再考できる視点を身に付ける。
- ・鍼灸師（国家試験）に求められるリハビリテーションの要素を体系的に理解する。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	末梢神経障害に対するリハビリテーション
第2回	リウマチに対するリハビリテーション
第3回	寝たきり高齢者に対するポジショニングと褥瘡予防
第4回	理学療法評価のまとめ
第5回	理学療法評価 形態測定・ROM上肢 実技
第6回	理学療法評価 形態測定・ROM下肢 実技
第7回	理学療法評価 MMT上肢 実技
第8回	理学療法評価 MMT下肢 実技
第9回	理学療法治療 筋力増強 実技
第10回	理学療法評価 深部腱反射・病的反射 実技
第11回	肩関節周囲炎に対する運動療法
第12回	腰痛に対する運動療法
第13回	膝関節OAに対する運動療法
第14回	定期試験
第15回	解説とまとめ
第16回	脳卒中患者に対する寝返り～起き上がり介助
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

予習：各回のテーマについて事前に教科書や信頼のおけるウェブサイトを目を通しておくこと。
復習：学習した内容について知識の整理と定着を図ること。疑問点などがあれば担当教員に相談すること。
対象疾患の多くは加齢障害に基づくものなので、解剖学・生理学・運動学との繋がりを意識しながら学習を進めること。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席と定期試験（100％）で評価を行う。

使用テキスト

- ・授業資料を配布する。
- ・東洋療法学校協会編、リハビリテーション医学改訂第4版、医歯薬出版会社。

担当教員の実務経験

医療施設等において理学療法士としての実務経験を有する。

科 目 名	高齢者福祉論	対 象 学 科	鍼灸学科		
担 当 教 員	渡辺 長	配 当 年 次	3学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	1単位
授 業 概 要					
日本の社会保障制度は社会情勢を反映し、制度改変と複雑化している。講義では鍼灸師の国家試験に求められる高齢者福祉や医療介護制度、公衆衛生と疫学に関する知識の整理を行う。また制度体系の学習のみならず、臨床で向き合う患者や自分の将来にも役立つ知識を実例を交えながら解説していく。					
到 達 目 標					
・ 鍼灸師に必要な社会保障制度を理解する。 ・ 現在社会が抱える問題点に気づき、あるべき社会保障政策について考えられる。 ・ 患者に対して必要な制度を説明し助言できるようになる。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	医療経済の概略				
第2回	医療保険制度の仕組み				
第3回	介護保険制度の成り立ち				
第4回	介護保険制度の仕組み				
第5回	施術者としての医療倫理				
第6回	疾病予防と公衆衛生				
第7回	WHO・母子保健・生活習慣病				
第8回	試験/解説				
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授 業 時 間 外 の 学 習					
講義で配布した資料を読み柔道整復師の国家試験に求められる知識の整理を行う。また疑問点などがあれば教員に確認すること。					
成 績 評 価					
年間出席の2/3以上の出席と小テスト（10％）と定期試験（90％）で評価を行う。					
使 用 テ キ ス ト					
テキスト指定はない。授業資料を配布する。					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
医療施設等において理学療法士としての実務経験を有する。					

2024年度

科目名	リハビリテーション医学	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	渡辺 長	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

昨今の深刻な高齢化社会においてリハビリテーションの重要性は高まっている。リハビリテーションの在り方は機能的アプローチに留まらず、身体的・精神的・社会的にあるべき状態への回復を目指すことにある。この実践は医療従事者が一方的に提供するものではなく、鍼灸師はもちろん地域住民をも含めたアクターが相互に情報共有や役割を果たしながら、創りあげていくものである。本科目では、鍼灸師の観点から必要なリハビリテーションの概念、知識及び技術の習得を目指すと共に、鍼灸師に期待される役割を学習する。そのため講義の中では生物学的知識の習得に限らず、他職種が果たす役割も交えながら、具体的事例の介入と効果について学んでいく。また進め方の基本として学生各々が自らの考えを発展させ応用できるようにアクティブラーニングの要素を積極的に取り入れていく。

到達目標

- ・高齢化にまつわる日本社会や経済の変動と医療専門職が置かれた状況を理解する。
- ・リハビリテーションの本義的観点から患者アプローチを再考できる視点を身に付ける。
- ・鍼灸師（国家試験）に求められるリハビリテーションの要素を体系的に理解する。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	リハビリテーションの理念・障害モデル	第21回	呼吸循環器疾患のリハビリテーション1
第2回	障害の捉え方	第22回	呼吸循環器疾患のリハビリテーション2
第3回	筋力増強訓練と筋収縮様式	第23回	運動学各論・姿勢と歩行分析1
第4回	筋力トレーニングの種類 実技	第24回	姿勢と歩行分析 実技
第5回	拘縮と関節可動域訓練	第25回	整形外科疾患のリハビリテーション1
第6回	関節可動域訓練の方法 実技	第26回	整形外科疾患の評価 実技
第7回	リハビリテーションにおける治療（物理療法）	第27回	整形外科疾患のリハビリテーション2
第8回	寒冷療法と筋力トレーニング 実技	第28回	整形外科疾患の治療 実技
第9回	脳卒中のリハビリテーション病態と分類	第29回	脊髄損傷のリハビリテーション1
第10回	脳卒中患者に対する評価方法 実技	第30回	脊髄損傷のリハビリテーション2
第11回	脳卒中のリハビリテーション失語とADL	第31回	定期試験
第12回	脳卒中患者に対する治療アプローチ 実技	第32回	解説/まとめ
第13回	義肢切断のリハビリテーション1	第33回	3学期：理念・ICF・評価学の復習
第14回	義肢切断のリハビリテーション2	第34回	3学期：理念・ICF・評価学の復習
第15回	定期試験	第35回	3学期：物理療法・脳卒中の復習
第16回	解説/まとめ	第36回	3学期：物理療法・脳卒中の復習
第17回	補装具療法のリハビリテーション1	第37回	3学期：脊髄損傷の復習
第18回	補装具療法のリハビリテーション2	第38回	3学期：脊髄損傷の復習
第19回	小児疾患のリハビリテーション1	第39回	3学期：義肢装具の復習
第20回	小児疾患のリハビリテーション2	第40回	3学期：その他の復習（高次脳障害など）

授業時間外の学習

予習：各回のテーマについて事前に教科書や信頼のおけるウェブサイトを目を通しておくこと。
復習：学習した内容について知識の整理と定着を図ること。疑問点などがあれば担当教員に相談すること。
対象疾患の多くは加齢障害に基づくものなので、解剖学・生理学・運動学との繋がりを意識しながら学習を進めること。

成績評価

年間出席の2/3以上の出席と小テスト（10%）と定期試験（90%）で評価を行う。

使用テキスト

- ・授業資料を配布する。
- ・東洋療法学校協会編、リハビリテーション医学改訂第4版、医歯薬出版会社。

担当教員の実務経験

医療施設等において理学療法士としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	医療概論・社会保障制度	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	久住 喜春	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

随時プリントを配布し、パワーポイントを使って座学講義をおこなう。

到達目標

医療の歴史（日本医学史）、医療制度、社会保障制度、医療従事者の倫理、現代社会において西洋医学と東洋医学が提示する問題について理解できるようになる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス・日本医学の歴史①
第2回	日本医学の歴史②
第3回	現代医学・健康問題について
第4回	医療従事者、医療施設、国民医療費
第5回	社会保障制度①
第6回	社会保障制度②
第7回	医療保険のしくみ
第8回	療養費について
第9回	生活保護、後期高齢者医療制度
第10回	公費医療、介護保険制度
第11回	介護保険制度、機能訓練指導員について
第12回	医療倫理①
第13回	医療従事者の倫理、EBM
第14回	総復習
第15回	定期試験
第16回	試験解説

授業時間外の学習

事後学習：配布資料を基に復習をしておくこと

成績評価

規定内の出席率と定期試験100点満点に0.9掛けで90点満点と小テスト10点とし、60点以上に取得によって単位を認める。

使用テキスト

随時資料を配布

担当教員の実務経験

施術所等においてははり師・きゅう師としての実務経験を有する。

科目名	公衆衛生学	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	村上 弘之	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどういう集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。

健康な生活を営むため必要ことはどのようなことなのか、また人々の生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、疾病とリスク因子の関わりについて疫学を学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。

地域、学校、産業、成人・高齢者、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。

到達目標

①医療に携わる一員として鍼灸師に重要な「感染症」と防御方法である「消毒法」の基本的内容を理解し、かつ実践できる。

②個々のライフスタイルが、心身の健康にどのように影響しているのかを説明できる。

③健康管理や疾病予防の意義とその必要性が説明できる。

④保健統計資料から、現在の日本や世界の健康関連データを読み解くことができる。

⑤疫学健康指標や疫学研究方法を学ぶことによって、疾病発症予防とリスク因子の関係性を説明できる。

⑥地域、学校、産業、成人・高齢者、母子といったそれぞれの分野での健康や衛生との関わりを理解できる。

⑦健康と環境との密接な関わりを理解し、健康の維持増進のため鍼灸師ができることを追及することができる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回 衛生学・公衆衛生学の意義	衛生学・公衆衛生学の成立とその源流日本の衛生学・公衆衛生学の歴史	第21回 衛生行政・国際保健	保健所の機構、市町村保健センターの役割国際保健活動
第2回 感染症の発症から予防まで①	感染症を引き起こす原因とは。	第22回 中間試験	前半5コマで学習した範囲を振り返る。
第3回 感染症の発症から予防まで②	感染症の予防方法とは。	第23回 母子保健（親子保健）	母体と乳幼児の健康と疾病対策
第4回 清潔・清潔・清潔・清潔の思い	清潔とは。滅菌と消毒の違い。鍼灸針の滅菌はなぜ行うのか。清潔手技はどうして必要か。	第24回 成人保健	成人にとっての健康と疾病対策。
第5回 健康の概念と健康増進①	健康の定義とは。疾病・疾患・病気の違い。	第25回 高齢者保健	2025年、2040年問題とは。高齢者保健医療福祉高齢者の健康課題と支援
第6回 健康の概念と健康増進②	今日、健康管理はなぜ必要なのか。病気は誰の責任か。	第26回 精神保健	精神障害者の生活と支援
第7回 ライフスタイルと健康	身体活動と健康の関係性	第27回 障害者・難病保健	障害者保健活動難病患者への支援・保健活動
第8回 生活習慣病対策	日本人の死因が伝染病から生活習慣病になったのはなぜか。生活習慣、栄養、嗜好の変化と疾病の関係性。	第28回 学校保健	学校保健における健康課題への対策
第9回 医療制度・医療保険	医療保険制度としての医療保険とは何か。国民皆保険制度のメリットとデメリット。超高齢化社会を現行の保険制度は支えられるか。	第29回 産業保健	産業保健の基本働く人々の健康管理とは。
第10回 中間試験	前半学習した範囲を振り返る。	第30回 定期試験	後期学習の振り返りと成績評価のため、定期試験を受験する。
第11回 食と健康	国民健康・栄養調査が示すことはどのようなことか。感染性食中毒と毒素型食中毒の違い食品添加物の役割	第31回 健康危機管理	感染症・災害発生時の保健活動
第12回 環境と健康	日常生活環境物理的環境化学的環境生物学的環境環境と適応	第32回 全体リフレクション	32コマの振り返り
第13回 リフレクション①	第1から4回までの復習（オンデマンド）と課題提出	第13回 鍼灸政策動向理解 鍼灸士・公衆衛生学理解①	オンデマンドで国試対策動画を視聴し、課題に解答提出する。衛生学・公衆衛生学の概念健康の保持増進と疾病予防
第14回 リフレクション②	第5から8回までの復習（オンデマンド）と課題提出	第14回 鍼灸政策動向理解 鍼灸士・公衆衛生学理解②	オンデマンドで国試対策動画を視聴し、課題に解答提出する。ライフスタイルと健康環境と健康
第15回 リフレクション③	第10から11回までの復習（オンデマンド）と課題提出	第15回 鍼灸政策動向理解 鍼灸士・公衆衛生学理解③	オンデマンドで国試対策動画を視聴し、課題に解答提出する。感染症消毒法
第16回 定期試験	前期学習の振り返りと成績評価のため、定期試験を受験する。	第16回 鍼灸政策動向理解 鍼灸士・公衆衛生学理解④	オンデマンドで国試対策動画を視聴し、課題に解答提出する。感染症消毒法
第17回 疫学①	疫学とは何か？それを学ぶことがなぜ大切なのか。因果関係健康・疫学指標	第17回 鍼灸政策動向理解 鍼灸士・公衆衛生学理解⑤	オンデマンドで国試対策動画を視聴し、課題に解答提出する。産業保健精神保健成人・高齢者保健学校保健母子保健
第18回 疫学②	疫学とは何か？それを学ぶことがなぜ大切なのか。疫学的方法スクーリング	第18回 鍼灸政策動向理解 鍼灸士・公衆衛生学理解⑥	オンデマンドで国試対策動画を視聴し、課題に解答提出する。産業保健精神保健成人・高齢者保健学校保健母子保健
第19回 保健統計①	保健統計とよばれているデータにはどのようなものがあるのか。	第19回 鍼灸政策動向理解 鍼灸士・公衆衛生学理解⑦	オンデマンドで国試対策動画を視聴し、課題に解答提出する。疫学・保健統計学国際保健
第20回 保健統計②	初歩的統計学の計算	第20回 鍼灸政策動向理解 鍼灸士・公衆衛生学理解⑧	オンデマンドで国試対策動画を視聴し、課題に解答提出する。疫学・保健統計学国際保健

授業時間外の学習

①授業終了後、復習問題に解答することで、授業中疑問であったことや学習内容をより理解することができる。

②到達目標の項目や国家試験対策について、オンデマンド教材の視聴後課題提出が求められる。

成績評価

定期試験80%、復習問題への取り組み10%、課題提出10%の計100%

60%以上合格の絶対評価。

使用テキスト

東洋療法学校協会 編／浜崎景・姫野誠一郎・出嶋靖志・笹澤吉明 著
東洋療法学校協会編教科書 衛生学・公衆衛生学 第2版 医歯薬出版株式会社 2005

担当教員の実務経験

病院において看護師、医療安全管理者としての実務経験を有する。

科目名	応用はり・きゅう理論	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	阿江 邦公	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	3単位
授業概要					
『はりきゅう理論 第3版』（東洋療法学校協会編、医道の日本社発行）を使用し、座学講義を行う。随時、参考資料を提示する。					
到達目標					
はり・きゅうの治効理論を生理学的に説明できるようにすることを目的とする。具体的には、鍼灸施術における感覚器系・自律神経系・生体防御機構に及ぼす影響や関連学説について説明できるようになる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容		回数	授業計画・内容	
第1回	8章：運動系の調節		第21回	9章：運動系と鍼、消化器系と鍼	
第2回	8章：運動系の調節		第22回	9章：泌尿器系と鍼、リラクセーションと鍼	
第3回	8章：運動系の調節		第23回	9章：生体防御系と鍼灸	
第4回	8章：自律神経系による調節		第24回	9章：その他の鍼灸による人体への影響	
第5回	8章：自律神経系による調節				
第6回	8章：自律神経系による調節				
第7回	8章：内分泌系による調節				
第8回	8章：大切な全身の調節				
第9回	8章：感覚				
第10回	8章：感覚				
第11回	8章：感覚				
第12回	8章：感覚				
第13回	8章：熱傷（炎症）				
第14回	8章：熱傷（炎症）				
第15回	8章：体表の反応				
第16回	定期試験				
第17回	9章：鍼鎮痛				
第18回	9章：鍼鎮痛				
第19回	9章：循環系と鍼灸				
第20回	9章：循環系と鍼灸				
授業時間外の学習					
事前学習：教科書などにより講義内容を把握しておく。 事後学習：教科書、配布資料等を参考に復習を行う。					
成績評価					
定期試験、小テスト、出席などの成績に平常点を加味する。					
使用テキスト					
『はりきゅう理論 第3版』（東洋療法学校協会編、医道の日本社発行）を使用する。					
担当教員の実務経験					
施術所等においてははり師・きゅう師としての実務経験を有する。					

科目名	病態生理学	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	阿江 邦公	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
配布資料をもとに座学講義を行う。過去の国家試験問題を行う。					
到達目標					
鍼灸臨床現場で疾病の判別をするための知識を身につけることを目的とする。 具体的には「症候の病態生理」について説明できるようになる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	頭痛、顔面痛				
第2回	めまい、難聴				
第3回	咳・痰、息切れ				
第4回	胸痛、腹痛				
第5回	下痢、月経異常				
第6回	排尿障害				
第7回	乏尿・無尿、浮腫				
第8回	定期試験				
第9回	肥満、やせ				
第10回	発熱、疲労・倦怠				
第11回	発疹、ショック				
第12回	出血傾向、易感染性				
第13回	貧血、口渇				
第14回	嘔声、吐血・下血				
第15回	意識障害				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習					
事後学習：配布資料等を参考に復習を行う。また過去の国家試験を解き直す。					
成績評価					
定期試験、小テスト、出席などの成績に平常点を加味する。					
使用テキスト					
基本は配布資料とする。『臨床医学総論 第2版』（東洋療法学校協会編、医歯薬出版社発行）を参考資料とする。					
担当教員の実務経験					
施術所等においては師・きゅう師としての実務経験を有する。					

科 目 名	臨床はりきゅう実技Ⅰ	対 象 学 科	鍼灸学科		
担 当 教 員	金子 公憲	配 当 年 次	3学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	2単位
授 業 概 要					
経絡治療を学ぶ。 東洋医学的診断による証の立て方を学ぶ。 実技練習試合を中心とする経絡治療。 経絡治療と並行して特殊鍼法を学ぶ。 臨床に必要な鍼法、灸法を学ぶ。					
到 達 目 標					
1・2年次に習得した知識、技術の向上。 実践的治療形式の反復練習による、臨床の実際を身につける。 経絡治療特有の脈診により、証をたてた治療ができるようになる。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容		回数	授業計画・内容	
第1回	ガイダンス・経絡治療について		第21回	臨床の実例とお互いに治療	
第2回	六部定位脈診・補瀉手技について		第22回	臨床の実例とお互いに治療	
第3回	脈診・背部俞穴への刺鍼練習		第23回	臨床の実例とお互いに治療	
第4回	流注に対する押手・刺手の刺鍼練習		第24回	臨床の実例とお互いに治療	
第5回	四診について		第25回	臨床の実例とお互いに治療	
第6回	六部定位脈診と証		第26回	臨床の実例とお互いに治療	
第7回	基本四証		第27回	実技試験	
第8回	脈診・腹診と基本四証		第28回	実技試験	
第9回	脈診・腹診と標治法		第29回	総括・復習	
第10回	お互いに治療		第30回	特殊鍼法	
第11回	お互いに治療		第31回	特殊鍼法	
第12回	お互いに治療		第32回	特殊鍼法	
第13回	実技試験		第33回	特殊鍼法	
第14回	基本四証と要穴		第34回	特殊鍼法	
第15回	四診と要穴		第35回	特殊鍼法	
第16回	問診・脈診・腹診と要穴		第36回	特殊鍼法	
第17回	本治法と補瀉手技		第37回	特殊鍼法	
第18回	臨床の実例とお互いに治療		第38回	特殊鍼法	
第19回	臨床の実例とお互いに治療		第39回	特殊鍼法	
第20回	臨床の実例とお互いに治療		第40回	総括	
授 業 時 間 外 の 学 習					
脈診はいつでも、どこでも練習することができる。 授業時間外だから理解の深まる脈診もある。					
成 績 評 価					
授業態度、出席、実技試験内容より評価する。					
使 用 テ キ ス ト					
プリント配布、東洋医学概論、経穴概論。					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
施術所等においてはり師・きゅう師としての実務経験を有する。					

科目名	臨床はりきゅう実技Ⅱ	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	河原 保裕	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

中医学の考え方を基礎に、臨床の現場に近い形で東洋医学手による診察、診断、治療ができるようになり、また自分の診断結果や治療内容について説明できるようにする。
また、そのための刺鍼トレーニングを行う。

到達目標

1. 各疾患に対し、基本的な処方、刺鍼が行えるようにする。
2. 問題解決能力（証決定、証鑑別、治療の組み立て、施術等）を身につける。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション 中国鍼の切皮、刺入	第21回	頭痛
第2回	刺鍼法（切皮、刺入、得気、刺鍼転向）	第22回	咳嗽
第3回	補瀉手技	第23回	咳嗽
第4回	補瀉手技	第24回	便秘
第5回	補瀉手技	第25回	吸玉療法
第6回	補瀉手技	第26回	吸玉療法
第7回	腰痛	第27回	月経痛
第8回	腰部脊柱管狭窄症	第28回	月経痛
第9回	痺証解説、坐骨神経痛	第29回	棒灸
第10回	膝痛	第30回	第2学期期末試験
第11回	肩関節痛	第31回	更年期障害
第12回	肩こり	第32回	泌尿器系疾患
第13回	頸痛	第33回	鼻炎
第14回	腰痛、肩こりの処方、刺鍼	第34回	花粉症（耳鍼）
第15回	挟脊刺、盤龍刺	第35回	耳鍼応用
第16回	第1学期期末試験	第36回	眼精疲労
第17回	弁証論治	第37回	醒腦開竅法
第18回	胃脘痛	第38回	醒腦開竅法
第19回	胃脘痛	第39回	認知症
第20回	頭痛	第40回	認知症

授業時間外の学習

東洋医学（中医学）基礎を復習する。
各疾患における鍼灸が適応か否かの鑑別診断が行えるよう復習する。

成績評価

学習者を対象に修得した行動目標の技能レベルを評価する。
担当教員により、実技試験を実施し100点満点中60点以上を額得した学生に単位を認定する。

使用テキスト

担当教員より資料を配布する。

担当教員の実務経験

施術所等においてははり師・きゅう師としての実務経験を有する。

科目名	臨床はりきゅう実技Ⅲ	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	似田 敦、小井土 善彦、前田 尚子、堀 春雄	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

鍼灸学校教育三学年を対象に、鍼灸臨床の現場で遭遇ことの多い、腰・膝・頸・肩の疼痛系関節疾患に的を絞り、現代鍼灸での治療法を説明した。

現代鍼灸と一口にいても、そこに標準的な教科書はなく、内容が具体的になるにつれ、治療者によって治療法が異なってくる。そうした中であって、私の四十余年の鍼灸臨床経験でつちかってきた（現段階での）結論が形成されてきた。本講義・実技内容を端的に示すならば、①実際に治療効果が高いこと、②治療法に科学的合理性があること、③学生が習得しやすい内容、などの特徴がある。それをまとめたテキストも類書があまりない独自性の強い内容となっている。（似田敦）

医療人として適切な判断対応能力、倫理観、自発・受容性を身につける。

基礎的な施灸を行える知識と技術を身につけ安全に施術を行える様になる。

経穴の特性を理解しながら施灸の訓練を行う。被験者となる学生同士の自主性が求められる内容となる。（堀春雄）

・妊娠・出産・産後の時期の女性の鍼灸の施術を組み立てられるために、理解を深めるよう内容を構築する。その時期の鍼灸治療の際の問診の内容や注意事項、トラブルの対処法について理解する。（前田先生）

到達目標

1. 鍼灸師が取り扱う機会の多い、いわゆる整形五大疾患に対する、現代鍼灸治療理論の基礎が理解できる。

2. 整形五大疾患に対する現代鍼灸治療の基本を行うことができる。

（似田敦）

基礎的な施灸を行える知識と技術を身につけ、実践出来るようになることを目的とする。（堀春雄）

・つわりや逆子、産後の女性の施術について、問診や施術の方法について組み立てができる。（前田先生）

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回 腰痛の病態と治療法（似田先生）	1. 撮診と浅層ファッシャの関係2. 脊髄神経後枝走行と撮診法の関係3. 胸椎後枝症候群症例の診療	第21回 沢田流基本穴と取穴法（堀先生）	経穴の教科書とは異なる、沢田流の基本穴とその取穴法について（座学）
第2回 腰痛の病態と治療法（似田先生）	4. メイン症候群（胸腰椎接合部の診療5. 腰椎—仙椎移行部多裂筋過緊張症の診療6. 胸腰筋緊張症または大腰筋筋緊張症の診療	第22回 各種関節に「乾灸・湿灸」の施灸法（堀先生）	特定の疾患を想定した沢田流大極治療の運用（座学・実技）
第3回 腰痛の病態と治療法（似田先生）	7. 外編総部の筋緊張症の診療8. 立位前屈時痛と立位背屈時痛に対する治療体位9. 八節穴への側入技法と治療点の選択	第23回 各種関節に「乾灸・湿灸」の施灸法（堀先生）	特定の疾患を想定した沢田流大極治療の運用（座学・実技）
第4回 梨状筋症候群の診療（似田先生）	1. 梨状筋症候群症例の診療2. 中・小殿筋緊張症の診療	第24回 各種関節に「乾灸・湿灸」の施灸法（堀先生）	特定の疾患を想定した沢田流大極治療の運用（座学・実技）
第5回 変形性股関節症の診療（似田先生）	3. 変形性股関節症の診療4. 仙腸関節機能障害の診療	第25回 各種関節に「乾灸・湿灸」の施灸法（堀先生）	特定の疾患を想定した沢田流大極治療の運用（座学・実技）
第6回 馬尾性間欠性跛行症の診療（似田先生）	5. 馬尾性間欠性跛行症の診療	第26回 産後ケア・主に基本穴の取穴	全9回の総復習を行う。
第7回 大腿直筋過収縮症の診療（似田先生）	1. 大腿直筋過収縮症の診療2. 外側広筋または内側広筋の過収縮症の診療	第27回 逆子（前田先生）	骨盤位の鍼灸治療と分娩について。
第8回 膝関節包緊張症の診療（似田先生）	3. 膝関節包緊張症の診療4. 鷲足炎の診療	第28回 逆子（前田先生）	骨盤位の鍼灸実技。
第9回 膝窩筋腱炎の診療（似田先生）	5. 膝窩筋腱炎の診療6. オスグッド病の診療	第29回 産後ケア（前田先生）	産後の特徴的な鍼灸治療の主訴と分娩後の女性の身体について。
第10回 後頭部の筋構造の総括2. 後頭下筋緊張症3. 頭板状筋緊張症（似田先生）	1. 後頭部の筋構造の総括2. 後頭下筋緊張症3. 頭板状筋緊張症	第30回 産後ケア（前田先生）	産後の鍼灸実技。
第11回 頭板状筋緊張症4. 頭半棘筋緊張症（似田先生）	3. 頭板状筋緊張症4. 頭半棘筋緊張症	第31回 更年期障害（小井土先生）	月経関連症状について学び、臨床で実践するための基本技術を学ぶ。
第12回 頭板状筋緊張症4. 頭半棘筋緊張症（似田先生）	6. （前）斜角筋症候群7. 小胸筋症候群（＝過外転症候群）	第32回 更年期障害に対する鍼灸治療（小井土先生）	月経関連症状に対する鍼灸治療について学び、臨床で実践するための技術を学ぶ。
第13回 肩関節の病態と治療法（似田先生）	1. 肩関節の病態と治療法（または棘上筋腱部分断裂）2. 三角筋停止部症	第33回 不妊症（小井土先生）	不妊症について学び、臨床で実践するための基本技術を学ぶ。
第14回 肩関節の病態と治療法（似田先生）	3. 肩関節の病態と治療法（または棘上筋腱部分断裂）4. 肩関節の病態と治療法（または棘上筋腱部分断裂）	第34回 不妊症に対する鍼灸治療（小井土先生）	不妊症に対する鍼灸治療について学び、臨床で実践するための技術を学ぶ。総合実習。小井土
第15回 肩関節の病態と治療法（似田先生）	5. 凍結肩（癒着性関節包炎）	第35回 つわり（前田先生）	つわりの鍼灸治療と妊娠について。
第16回 肩関節の病態と治療法（似田先生）	これまでに学習してきた整形疾患の鍼灸実技課題を復習する。「現代針灸治療」に関する自分自身の見解をレポートとして提出する。	第36回 つわり（前田先生）	つわりの鍼灸実技。
第17回 沢田流概念（堀先生）	沢田流の基本概念について（座学）	第37回 逆子（前田先生）	骨盤位の鍼灸治療と分娩について。
第18回 鍼灸実技（アタリ）（堀先生）	沢田流概念を用いた施灸の実技をみてもらう（実技）	第38回 逆子（前田先生）	骨盤位の鍼灸実技。
第19回 産後ケア（前田先生）	大極治療とは何か（座学）	第39回 産後ケア（前田先生）	産後の特徴的な鍼灸治療の主訴と分娩後の女性の身体について。
第20回 産後ケア（前田先生）	座学の内容を踏まえて、実技練習を行う（実技）	第40回 産後ケア（前田先生）	産後の鍼灸実技。

授業時間外の学習

・自己学習（前田先生）

成績評価

それぞれの先生ごとに、レポート課題が出されるので、指定期日までに提出し、評価を得ること。

・現代鍼灸と古典鍼灸を比較し、それぞれの長所短所を比較。その上でいかに自分の鍼灸治療スタイルを構築していくかの意見をレポートする。（似田敦）

・授業内容から1つのテーマを選択し、それについてレポートを作成する。レポートは、授業の内容を踏まえ、さらにそれぞれの鍼灸施術を行う際の注意事項やトラブルの対処法について記述をする。また、妊娠出産、産後について理解した上で考えたり感じたりしたことをレポートする。（前田先生）

使用テキスト

・オリジナルテキスト「鍼灸奮起の会オリジナルテキスト」（似田先生）

・逆子の鍼灸治療第2版（医歯薬出版株式会社）、標準産婦人科学第5版（医学書院）、レディース鍼灸（医歯薬出版株式会社）（前田先生）

担当教員の実務経験

施術所において、はり師きゅう師としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	臨床実習Ⅲ	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	寺田 奈生、久住 喜春、栗 夏美、内山 美紅、中村 理巧、白崎 史剛、菅原 悠衣	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	外部実習	単位	1単位

授業概要

臨床実習Ⅲは治療院実習であり、治療院とは鍼灸治療が行われる施術所を指す。一般に「鍼灸院」「鍼灸整骨院」と呼ばれる施設を実習の場とする。臨床実習Ⅲは「接遇・マナー」がテーマ。→旧カリキュラム

選ばれる鍼灸院・鍼灸師として身につけるべきスキルや、患者対応（コミュニケーション）はどのようにされているのかを学ぶ。

- ・集客方法での差別化
- ・地域密着でしている院ではどのような工夫やどんな意識でしているのか
- ・治療技術以外での他院との差別化でやっていることは何か
- ・信頼関係の構築に向けて心がけている事

到達目標

選ばれた鍼灸院・鍼灸師として、患者様との接し方を見学し、治療技術以外でのオペレーションで特に心がけている所を学ぶ。
将来開業をした際や、自身が「こんな鍼灸師に診てもらいたい」をイメージする。
見学してきた治療院の良い点、改善すべき点などを考察し、自分が治療者であれば、または自分が患者ならどんな治療院に行きたいと思うか、イメージできる。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

[illegible]

授業時間外の学習

実習先に向かうにあたり、社会人として必要なマナーやルール（個人情報の取り扱いなど）を学ぶための事前準備時間を設ける。
実習時間は1日4時間（半日）、または8時間（1日）となるが、毎回帰宅後に実習日報にてその日あったことや、感じたことなどを記し、後日学校に提出する。

成績評価

実習先指導者による評価、実習日報の提出状況・内容、実習報告会の内容などから総合的に評価を行う。

使用テキスト

担当教員の実務経験

施術所等においては師・きゅう師としての実務経験を有する

科目名	東洋医療総合講座Ⅰ	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	寺田 奈生	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

前半（1学期）は治療の考え方から、医療面接・視診・触診・検査法等の各種診察法の復習を行い、患部・施術部位を確定させる。
後半（2学期）はクラスを2つの分け、1つのグループは治療演習を行う。原則3人グループに分かれ、1人は治療者、1人は患者、1人は評価者に分かれて、治療におけるすべての過程を自分で考え実施する。ただし施術においては教員が確認をし、なぜその診断なのか、どう治療するのか根拠を述べさせ、安全に鍼灸治療が行えているか監視の元行う。
もう1グループは前週に行った治療のカルテをグループ全員の前で発表し、症例検討を行う。治療回での改善点や反省点などフィードバックし、修正を図り、今後に生かす。

到達目標

診察から診断、治療、指導、クロージングに至る、一連の治療の流れを理解し、実施できる。
カルテに一連の流れを記載できる（手書きで行う）。
患者への細かな気遣い、効率の良い時間配分、説明責任を果たし、患者を納得させるに足る鍼灸師を目指す。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション（座学）	第21回	A症例発表②・B治療②
第2回	診察と治療の進め方①（座学）	第22回	A症例発表②・B治療②
第3回	姿勢観察（実技）	第23回	A治療③・B症例検討②
第4回	診察と治療の進め方②（座学）	第24回	A治療③・B症例検討②
第5回	筋緊張・硬結に対する触診（実技）	第25回	A症例発表③・B治療③
第6回	診察と治療の進め方③（座学）	第26回	A症例発表③・B治療③
第7回	筋緊張・硬結に対する刺鍼（実技）	第27回	A治療④・B症例検討③
第8回	診察と治療の進め方④（座学）	第28回	A治療④・B症例検討③
第9回	刺鍼による姿勢・関節可動域の変化（実技）	第29回	A症例発表④・B治療④
第10回	腰痛（シュミレーション）	第30回	A症例発表④・B治療④
第11回	腰痛（実技）	第31回	A治療⑤・B症例検討④
第12回	肩こり・頸肩腕痛（シュミレーション）	第32回	A治療⑤・B症例検討④
第13回	肩こり・頸肩腕痛（実技）	第33回	A症例発表⑤・B治療⑤
第14回	総合治療演習オリエンテーション	第34回	A症例発表⑤・B治療⑤
第15回	A治療①・B症例検討①	第35回	A治療⑥・B症例検討⑤
第16回	A治療①・B症例検討①	第36回	A治療⑥・B症例検討⑤
第17回	A症例発表①・B治療①	第37回	A症例発表⑥・B治療⑥
第18回	A症例発表①・B治療①	第38回	A症例発表⑥・B治療⑥
第19回	A治療②・B症例検討①	第39回	B症例発表⑥・総括
第20回	A治療②・B症例検討①	第40回	B症例発表⑥・総括

授業時間外の学習

診察・診断過程における知識不足の場合には2年生までの授業内容の総復習が必要。
鍼灸技術の向上など、治療にあたっての力量不足があれば、練習を行う必要がある。
症例発表のためのスライド作成は各自行うこと。

成績評価

評価は2学期の治療演習での内容、症例検討での発表、質問等の発言などから総合的に評価を行う。

使用テキスト

特になし。必要に応じてデータ資料等を配布する。

担当教員の実務経験

施術所等においては師・きゅう師としての実務経験を有する。

2024年度

科目名	東洋医療総合講座Ⅱ	対象学科	鍼灸学科		
担当教員	寺田 奈生	配当年次	3学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	5単位

授業概要

2年生までの科目の総復習を行う。
すでにある知識を生かすため、アクティブラーニング、グループ学習の形式をとる。
知識不足解消のため、時間外学習として暗記項目を指定し、各教員の口頭試問を受け、一定期日までにクリアしてもらうトライアルを行う。
終盤では自分たちで問題を作成し、問題解説をクラスメイトに講義してもらう機会を与える。

到達目標

これまでの科目縦割りの勉強方式から科目を横断する形で勉強する方式へとシフトしてもらうため、4択問題を題材にしながら柔軟に対応する力、応用力を身につける。
1つの物事を多面的にみる力をつけることで、これまで学んできた知識をつなげて運用できるようにする。
協力して勉強し、人に知識を伝え教えることで知識を深める。
自学自習の習慣を身につけることを目指す。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容	回数	授業計画・内容
第1回	鍼灸師をめざすために（キャリアガイダンス）	第21回	臨床医学各論③
第2回	勉強の仕方を見直そう①	第22回	小テスト
第3回	勉強の仕方を見直そう②	第23回	東洋医学臨床論（西洋）①
第4回	勉強の仕方を見直そう③	第24回	東洋医学臨床論（西洋）②
第5回	解剖学①	第25回	東洋医学臨床論（西洋）③
第6回	解剖学②	第26回	東洋医学臨床論（東洋）①
第7回	生理学①	第27回	東洋医学臨床論（東洋）②
第8回	生理学②	第28回	東洋医学臨床論（東洋）③
第9回	小テスト	第29回	4択問題を作成しよう①
第10回	東洋医学概論①	第30回	定期試験
第11回	東洋医学概論②	第31回	4択問題を作成しよう②
第12回	東洋医学概論③	第32回	4択問題を作成しよう③
第13回	経絡経穴概論①	第33回	4択問題を作成しよう④
第14回	経絡経穴概論②	第34回	定期試験
第15回	経絡経穴概論③	第35回	総復習（オンデマンド）①
第16回	定期試験	第36回	総復習（オンデマンド）②
第17回	病理学概論	第37回	総復習（オンデマンド）③
第18回	臨床医学総論	第38回	総復習（オンデマンド）④
第19回	臨床医学各論①	第39回	総復習（オンデマンド）⑤
第20回	臨床医学各論②	第40回	総復習（オンデマンド）⑥

授業時間外の学習

期限付きの口頭試問トライアルを行う。
あらかじめ範囲を記した各分野の暗記項目を各教員に配当し、期限までに全ての口頭試問を合格し、クリアしてもらう。

成績評価

期末試験は学期ごとに計3回行う。
（この科目は国家試験前に3回目の期末試験を実施するため、注意すること）
小テストの点数、口頭試問トライアルの達成度を全体評価の5割分に加味する。

使用テキスト

各科目の教科書、その他参考書など調べものに必要なものなら持ち込み可。

担当教員の実務経験

施術所等においてははり師・きゅう師としての実務経験を有する。